まちづくりを取り巻く主要課題

平成24年10月

小牧市市長公室
市政戦略課

目　次

◆序論　2

◆まちづくりの課題

1 安全・安心（防災・防犯）　14

2 誇り・魅力（愛着・誇り、中心市街地、観光）　17

3 活力（産業振興、公共交通）　28

4 支えあい（高齢者福祉、医療、子育て支援）　34

5 市民力（協働・市民参加、地域コミュニティ）　40

序論

（1）総合計画後期基本計画の策定
（2）人口・高齢化の推移・推計
（3）小牧市の財政状況
（4）今後の行政経営のあるべき姿
（5）後期基本計画策定の視点

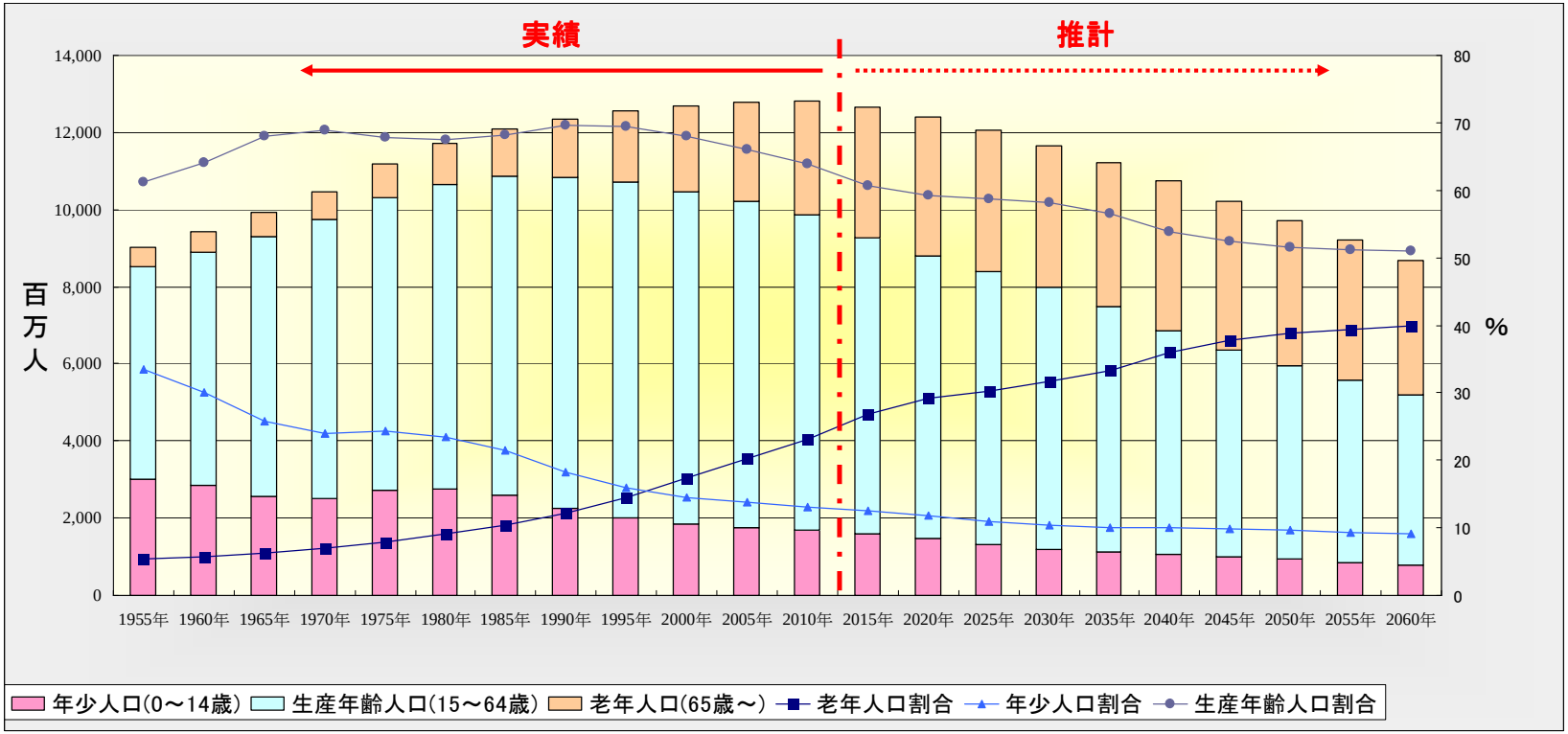
（1）第6次小牧市総合計画後期基本計画の策定について

- 総合計画とは、市民憲章が目指す理想のまちに近づくため、将来都市像を示し、これを実現するためにすべきことを定める、“まちづくりの指針”となる計画。
- 後期基本計画策定の趣旨
  1. 基本計画は概ね5年で見直すこととしている。
  2. 新たな社会経済情勢への対応が必要。
     - 地方自治法の改正
     - マニフェスト型選挙の拡大
     - 右肩下がりの時代への対応等
  3. 平成24年度より2ヵ年で見直しを行う。

(2)－1 我が国における年齢階層別人口推移・推計

・2010年から人口減少社会へ、2060年には8,673万人に。

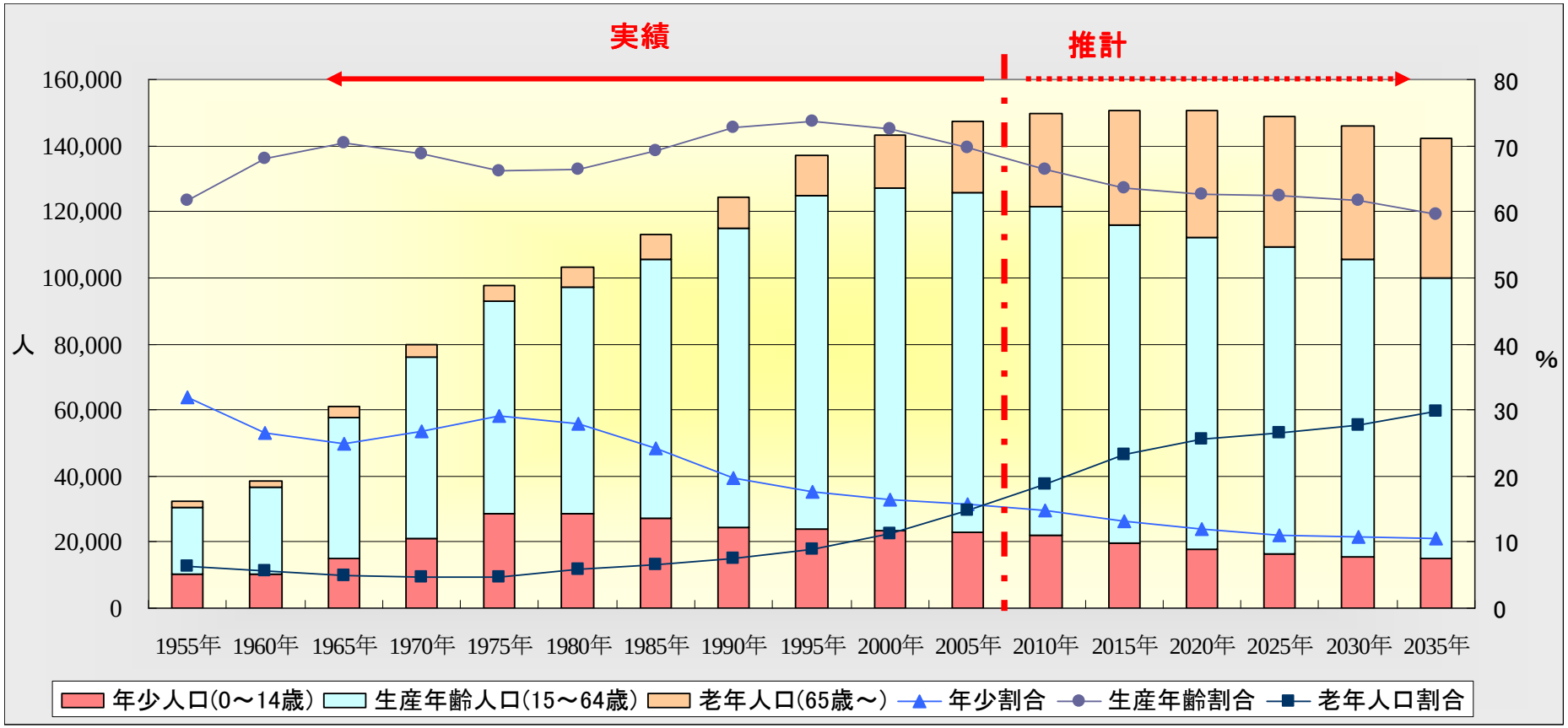
・65歳以上人口割合（高齢化率）は39.9%、生産年齢人口1.27人で高齢者1人を支える社会。



	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
日本の人口	9,008	9,430	9,921	10,466	11,190	11,700	12,101	12,329	12,544	12,670	12,777	12,806	12,660	12,409	12,066	11,662	11,212	10,728	10,220	9,708	9,193	8,673
年少人口(0～14歳)	3,012	2,843	2,553	2,515	2,722	2,751	2,603	2,249	2,001	1,847	1,759	1,684	1,583	1,457	1,324	1,204	1,129	1,073	1,011	939	861	791
生産年齢人口(15～64歳)	5,517	6,047	6,744	7,212	7,581	7,884	8,251	8,590	8,717	8,622	8,442	8,174	7,682	7,340	7,085	6,773	6,343	5,787	5,353	5,001	4,706	4,418
老年人口(65歳～)	479	540	624	739	887	1,065	1,247	1,490	1,826	2,201	2,576	2,948	3,395	3,612	3,657	3,685	3,740	3,868	3,856	3,768	3,626	3,464
年少人口割合	33.44	30.15	25.73	24.03	24.33	23.51	21.51	18.24	15.95	14.58	13.77	13.15	12.50	11.74	10.97	10.32	10.07	10.00	9.89	9.67	9.37	9.12
生産年齢人口割合	61.2	64.1	68.0	68.9	67.7	67.4	68.2	69.7	69.5	68.1	66.1	63.8	60.7	59.2	58.7	58.1	56.6	53.9	52.4	51.5	51.2	50.9
老年人口割合	5.3	5.7	6.3	7.1	7.9	9.1	10.3	12.1	14.6	17.4	20.2	23.0	26.8	29.1	30.3	31.6	33.4	36.1	37.7	38.8	39.4	39.9

資料：2005年までは総務省統計局「国勢調査」、2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）中位推計」より

(2)－２ 小牧市における年齢階層別人口推移・推計



	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
小牧市の人口	32,326	38,531	60,877	79,606	97,427	103,219	113,284	124,262	137,161	143,094	147,185	149,701	150,728	150,394	148,729	145,937	142,283
年少人口(0～14歳)	10,351	10,199	15,112	21,307	28,416	28,745	27,445	24,542	24,000	23,549	23,054	22,046	19,916	17,937	16,445	15,637	15,084
生産年齢人口(15～64歳)	19,946	26,194	42,831	54,641	64,426	68,480	78,348	90,426	101,037	103,585	102,501	99,408	95,820	94,149	92,872	89,888	84,697
老年人口(65歳～)	2,029	2,138	2,934	3,658	4,585	5,994	7,491	9,294	12,124	15,960	21,630	28,247	34,992	38,308	39,412	40,412	42,502
年少割合	32.02	26.47	24.82	26.77	29.17	27.85	24.23	19.75	17.50	16.46	15.66	14.73	13.21	11.93	11.06	10.72	10.60
生産年齢割合	61.70	67.98	70.36	68.64	66.13	66.34	69.16	72.77	73.66	72.39	69.64	66.40	63.57	62.60	62.44	61.59	59.53
老年人口割合	6.28	5.55	4.82	4.60	4.71	5.81	6.61	7.48	8.84	11.15	14.70	18.87	23.22	25.47	26.50	27.69	29.87

資料：総務省統計局「２００５年　国勢調査」より作成

(2)－３ 小牧市における高齢化率の推移・推計

- 高齢化率(65歳以上人口／総人口)は、2035(平成47)年には29.9%(推計値)に達し、人口の約３人に1人が高齢者となる予測。
- 今後、団塊世代の加齢により、75歳以上人口が急増、2025(平成37)年は対2010(平成22)年比で約2.2倍。

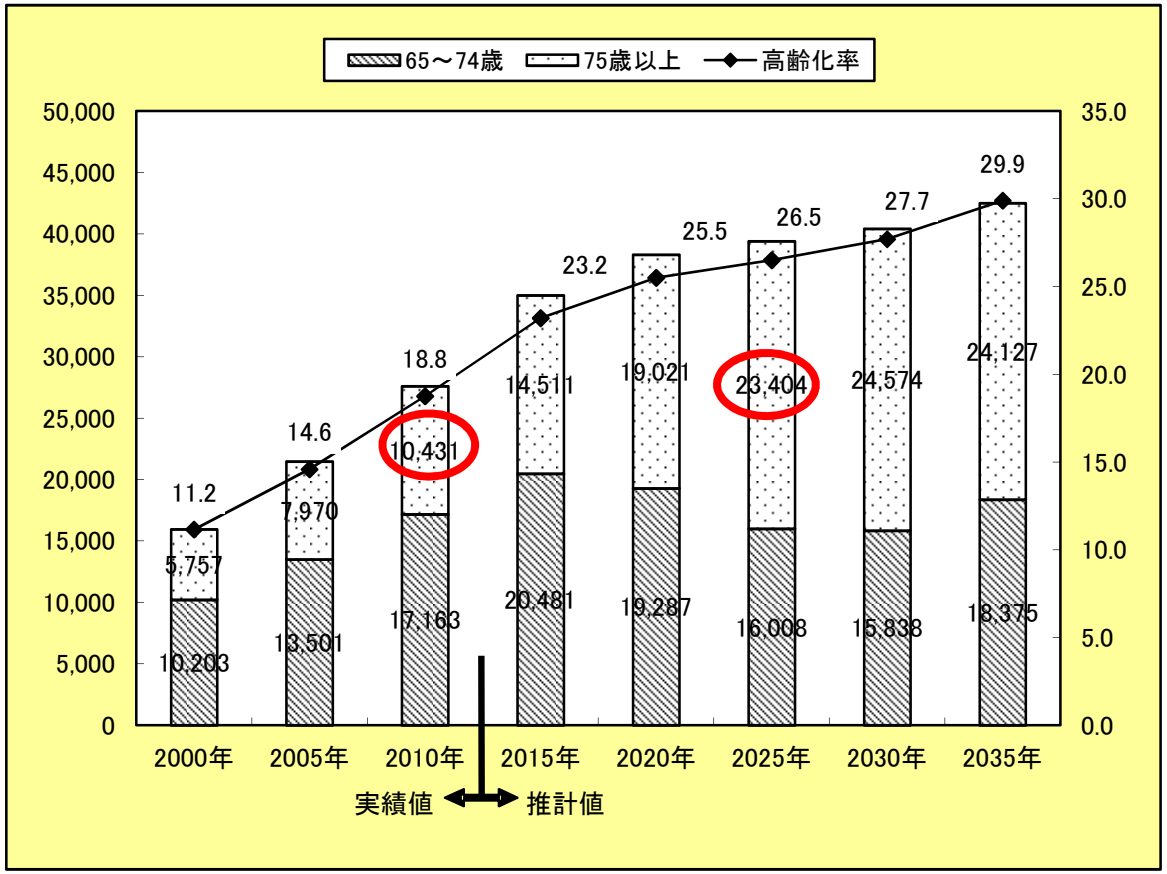
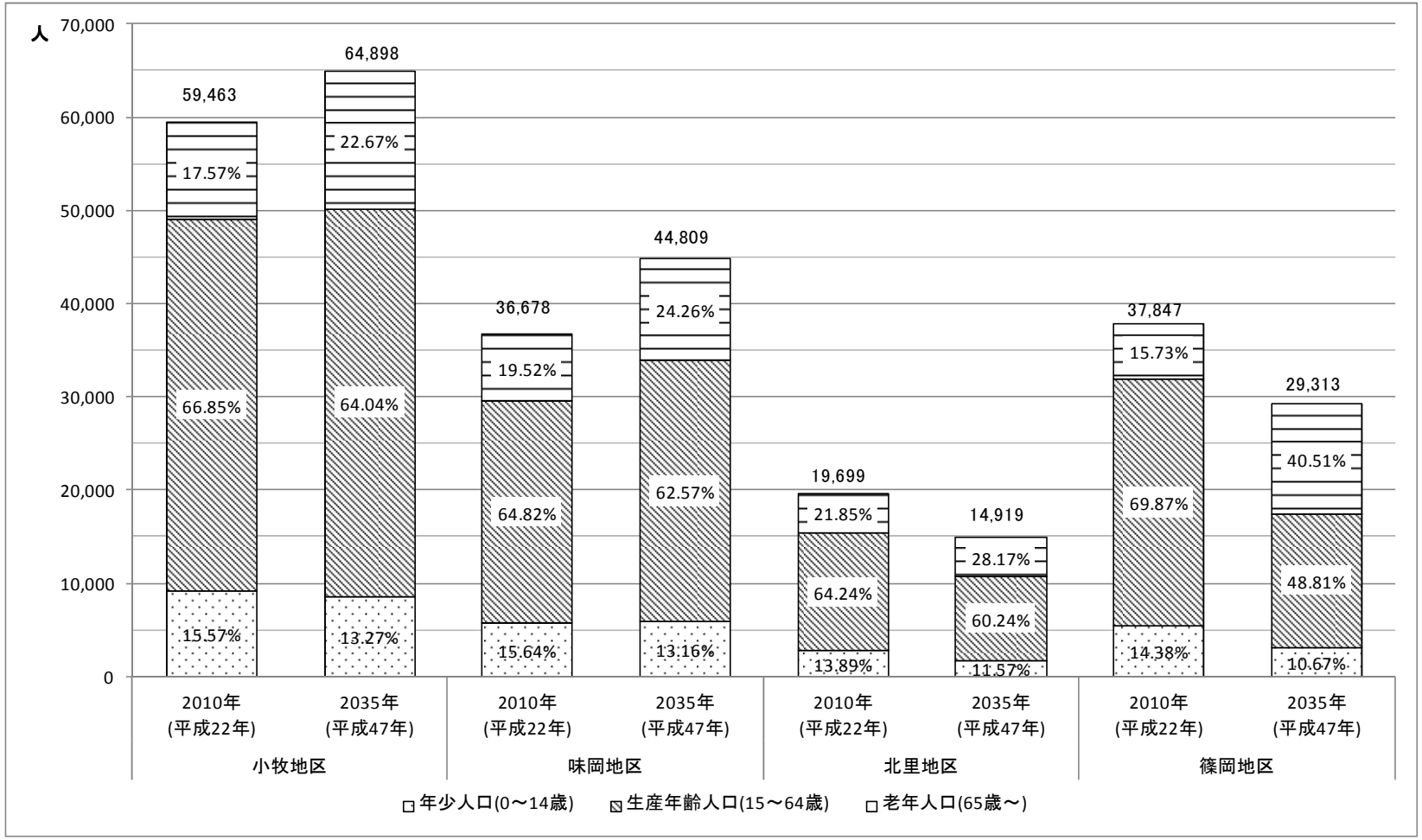


図　65歳以上人口の将来推計
出典：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の市区町村別将来人口推計」(平成20年12月推計)

(2)－４ 地区別の人口、高齢化率の推計

- 名鉄小牧線沿線の小牧地区、味岡地区の人口は増加していく。
- 一方、北里地区、篠岡地区の人口は減少していく。
- 全市的に高齢化が進むが、特に篠岡地区の高齢化率が大きく上昇する。



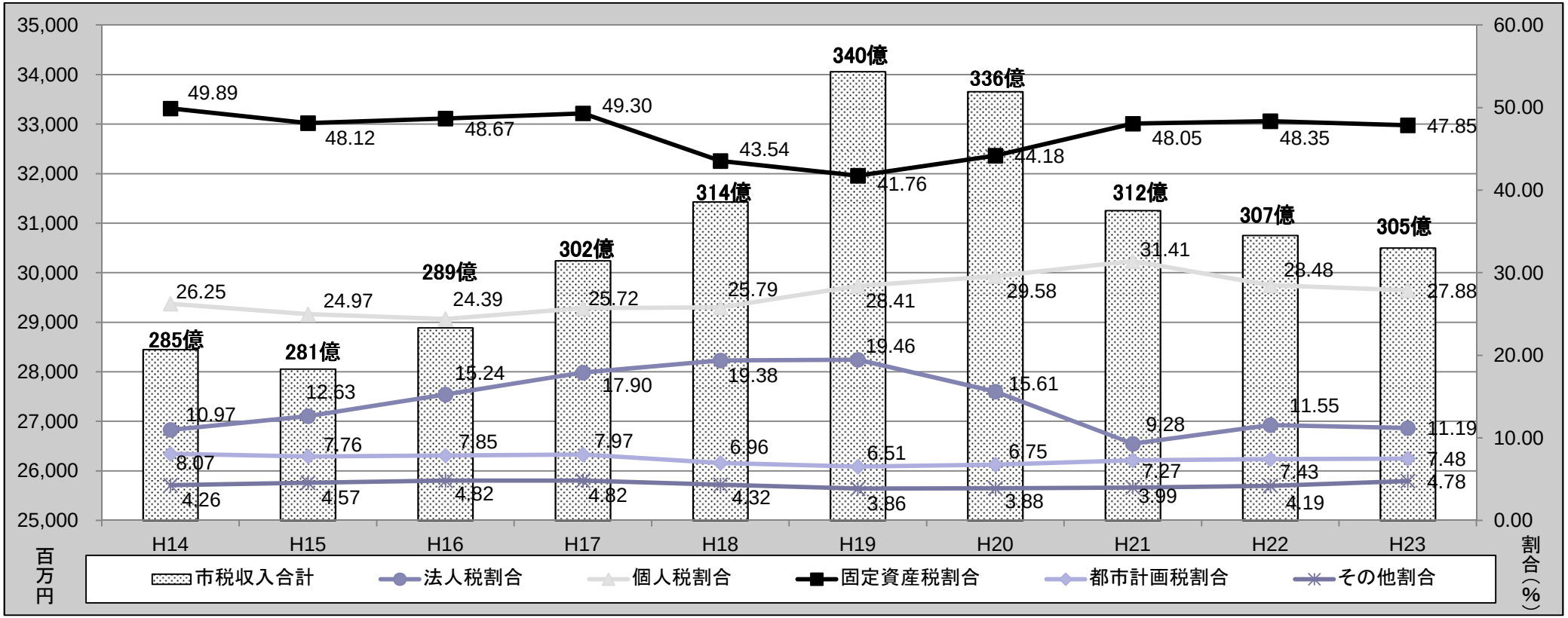
※平成22年の住民基本台帳人口を基に修正コーホート要因法により地区別人口を推計。

(3)－１ 小牧市の現状 ～財政～

歳入：525億円　歳出：495億円（平成23年度一般会計決算）

・本市の市税収入は、平成19年度の340億円をピークに減少に転じており、平成23年度は、305億円に留まっている。

図表　市税の推移(各年度一般会計決算額)

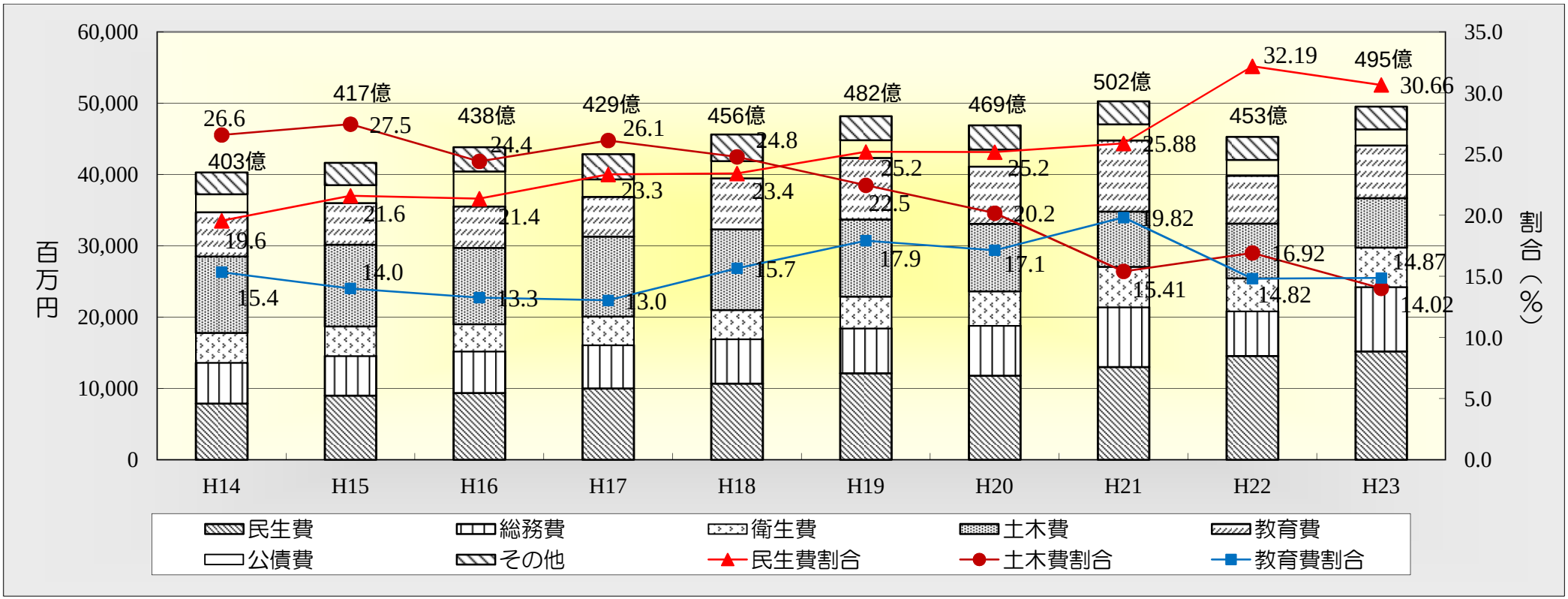


(3)－２ 小牧市の現状 ～財政～

歳入：525億円　歳出：495億円（平成23年度一般会計決算）

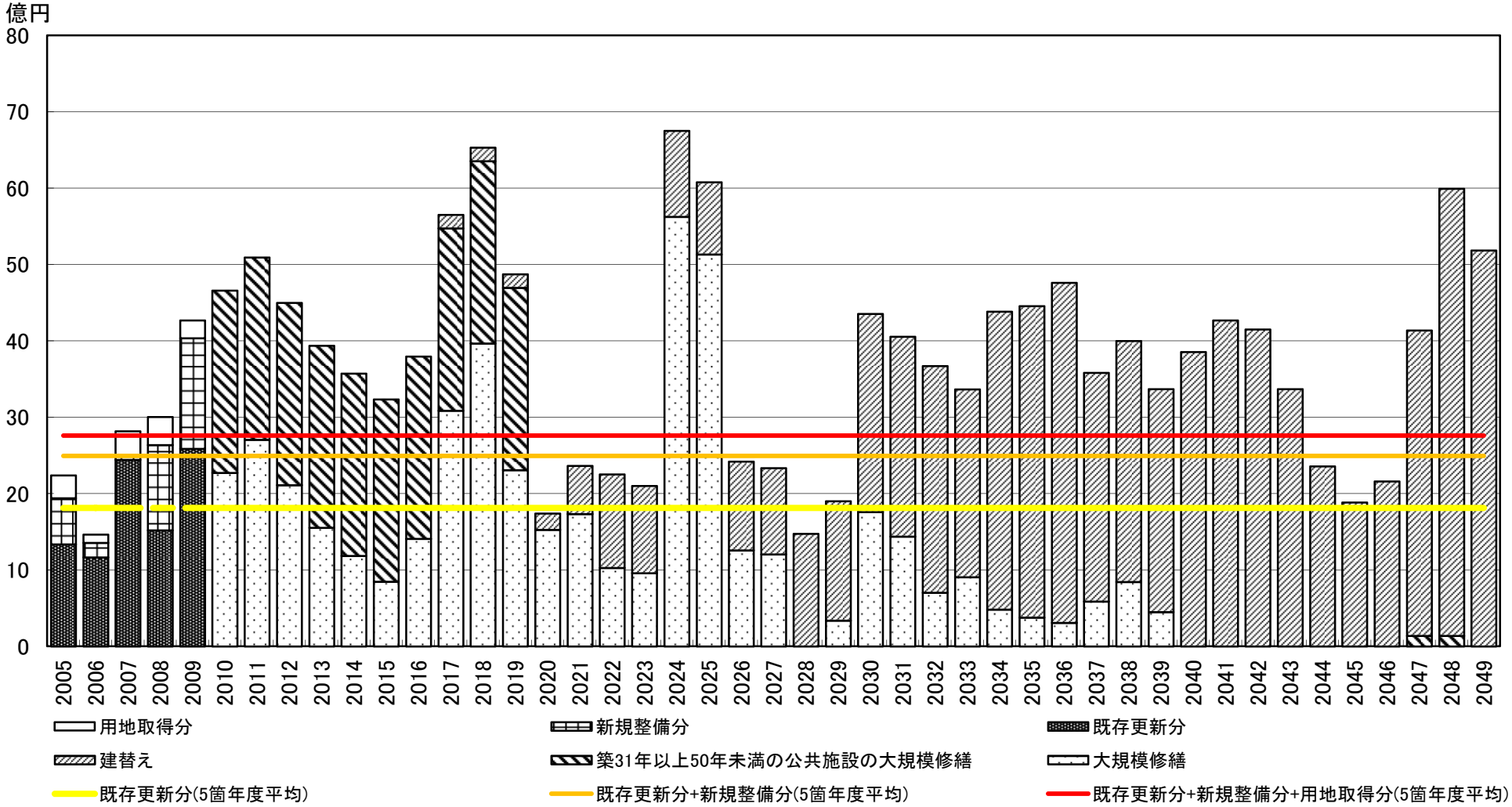
- 直近５年間の歳出額は、年間450億円から500億円程度で推移。
- 歳出に占める目的別では、民生費が増加傾向を続けており、民生費が占める割合は30％を超えている。

図表　目的別歳出決算額推移(各年度一般会計決算額)



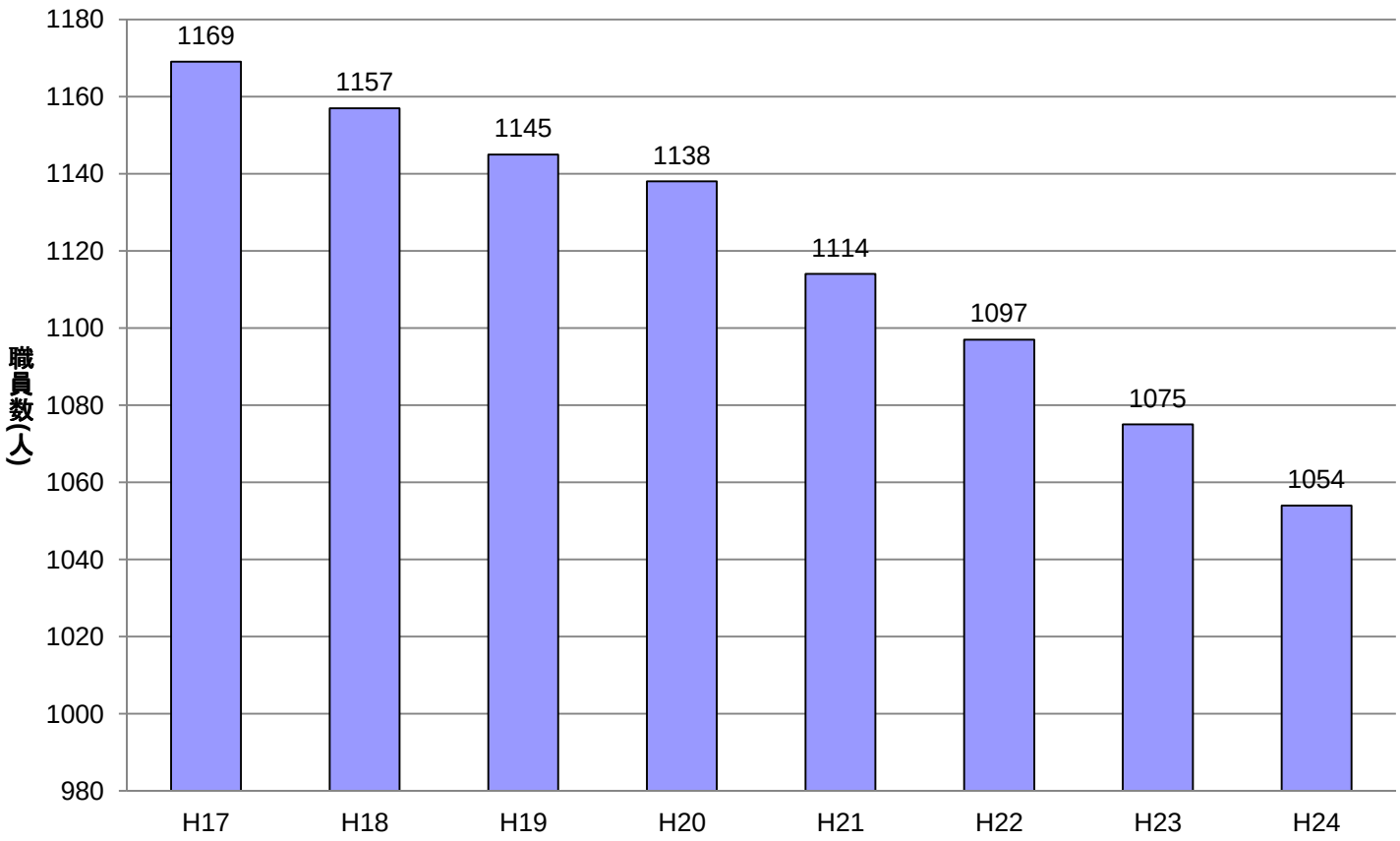
(3)－３ 公共施設の将来の更新費用の推計

・施設更新費用は、直近５年(2005～2009)平均は25.0億円であったが、
今後40年間(2010～2049)平均は約1.5倍の38.2億円になる。



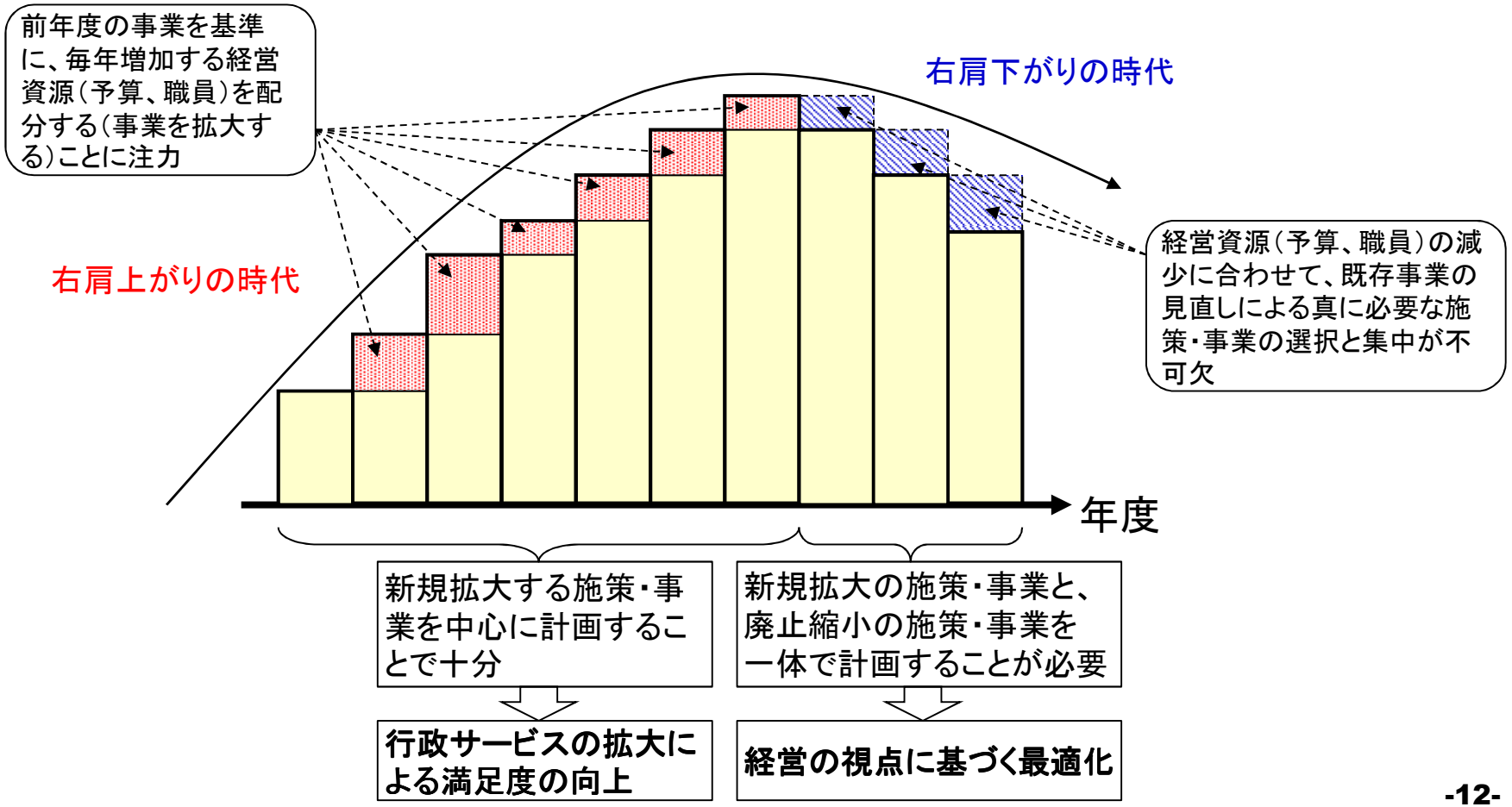
(3)－４ 職員数（行政職）の推移

・社会経済情勢が大きく変化する中で、簡素で効率的な行財政システムを構築するために、定員適正化のための取組みを積極的に進めた結果、平成24年の職員数（1,054人）は平成17年の職員数（1,169人）と比較して115人（約1割）の職員の削減。



(4) 今後の行政経営のあるべき姿

・右肩上がりの時代は、経営資源(予算、職員)の増を背景に、施策・事業を新規・拡充することにより、市民満足度は向上していた。
・一方、これからの右肩下がりの時代は、選択と集中により、経営資源(予算、職員)配分及び行政サービスの最適化を図る必要がある。



（5）後期基本計画策定の視点

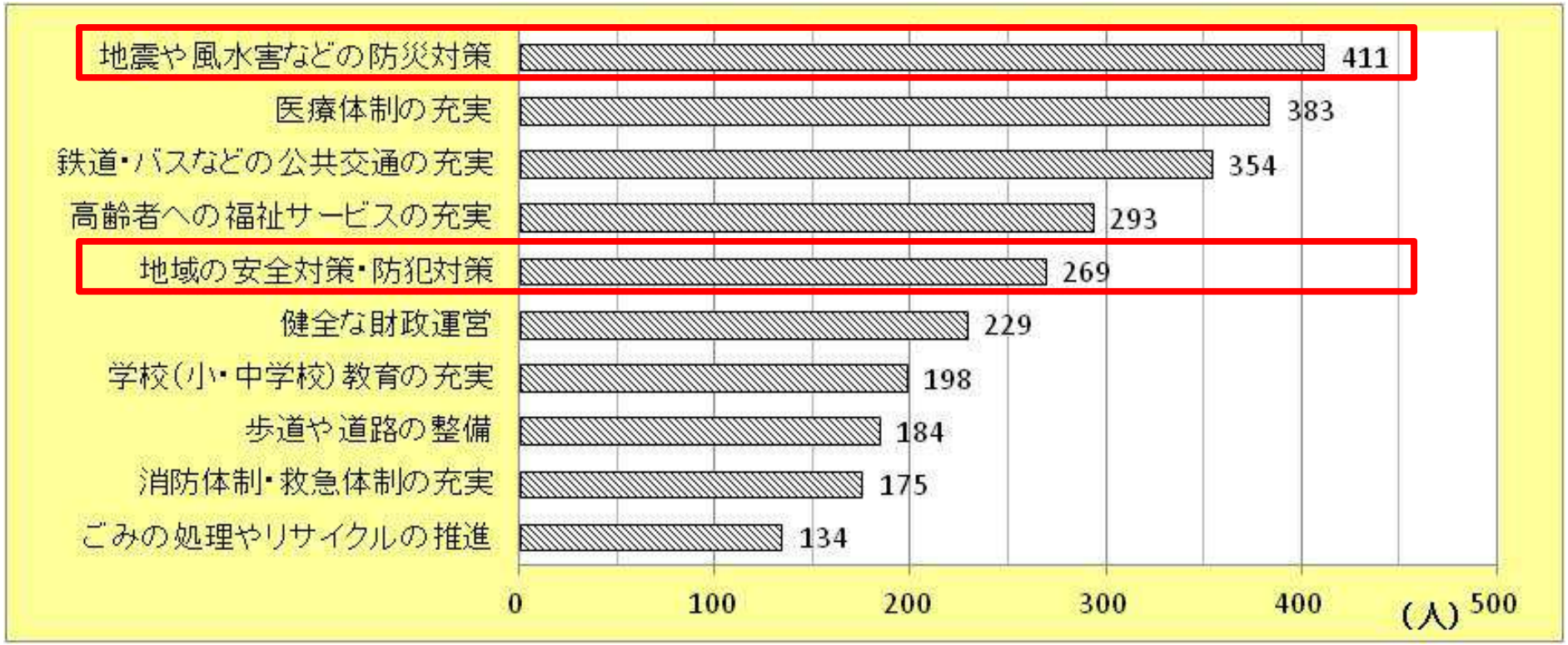
- これらのことを踏まえ、以下の視点に基づき、後期基本計画を策定していく。
  1. 戦略性の高い計画の策定
  2. 新たな環境変化への対応
  3. 市民意見・ニーズの適切な反映
  4. 政策・施策の評価検証
  5. 自治体経営システムの構築
  6. わかりやすく使える計画
  7. 行財政改革と一体的な計画

1 安全・安心

（1）防災・防犯

（１）防災・防犯

- 「まちづくりに関する市民意向調査」では、東日本大震災を契機とした防災意識の高まりなどを背景に「地震や風水害などの防災対策」は今後最も優先すべき施策の中で50施策中第１位。
- 「まちづくりに関する市民意向調査」の中で、「地域の安全対策・防犯対策」は、今後最も優先すべき施策の中で50施策中第５位。



※回答者1,189人中、最も優先すべき施策として選択した市民の数（複数回答）

図　今後、最も優先して実施すべき施策
出典：まちづくりに関する市民意向調査（平成24年7月）

（１）防災・防犯

- 防災対策として、昭和56年５月以前に着工した施設（会館や保育園等）は全て耐震診断を実施した。今後は、診断結果に基づき必要な対策を行っていく。なお、小中学校の耐震化については、平成26年度の味岡中学校の改築をもって終了する。
- 地域の安全対策・防犯対策として、地域の自主防犯活動の支援、防犯灯の設置推進、防犯カメラの設置等を進めてきた。

２ 誇り･魅力

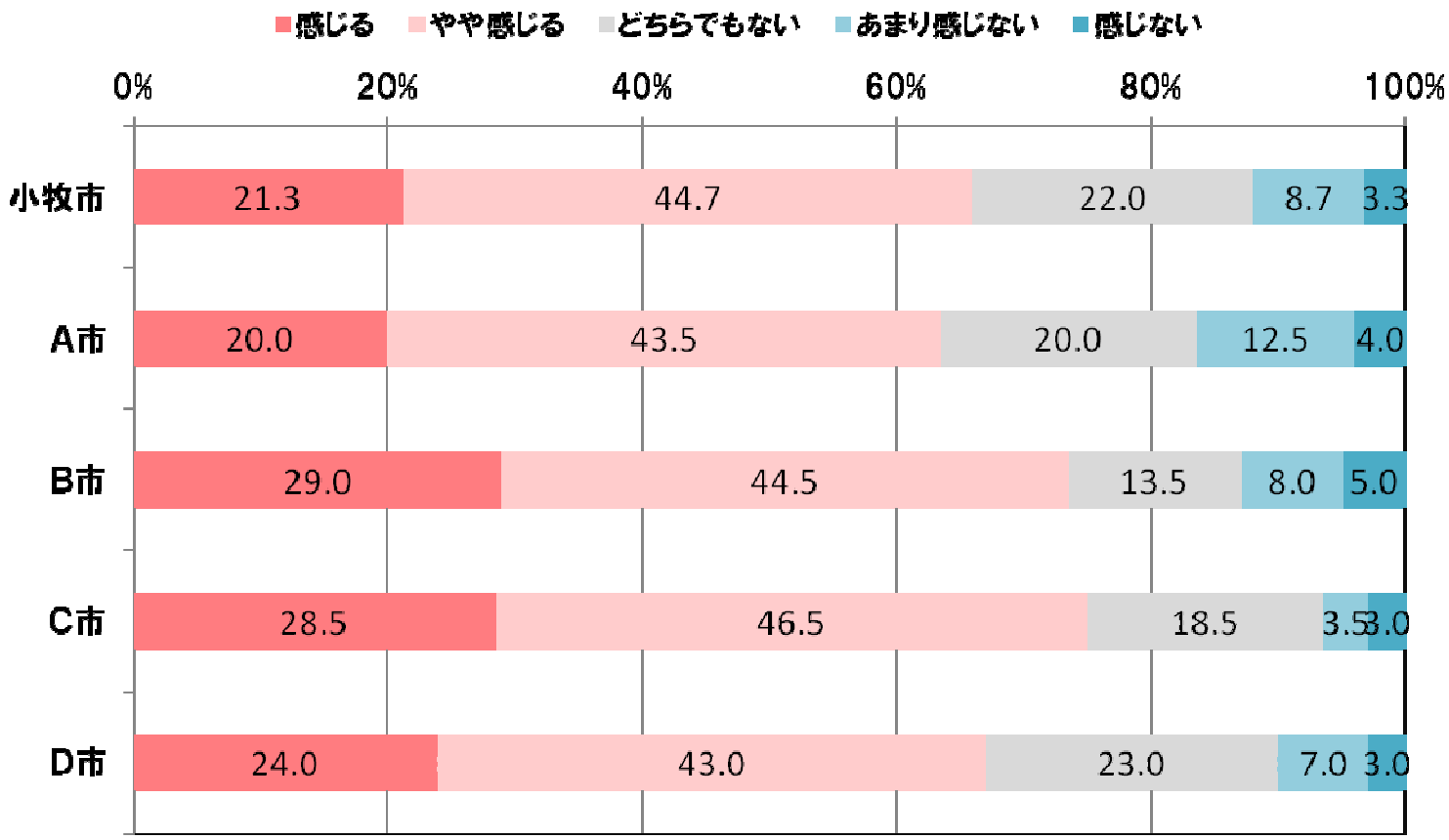
（１）愛着･誇り

（２）中心市街地

（３）観光

（1）－1愛着・誇りの現状

- 愛着・誇りを感じている小牧市民は6割強と他市よりも低い傾向。
- 居住地別にみると、B市、C市で愛着・誇りを感じる傾向が高く7割を超えるが、小牧市はA市に次いで低い。

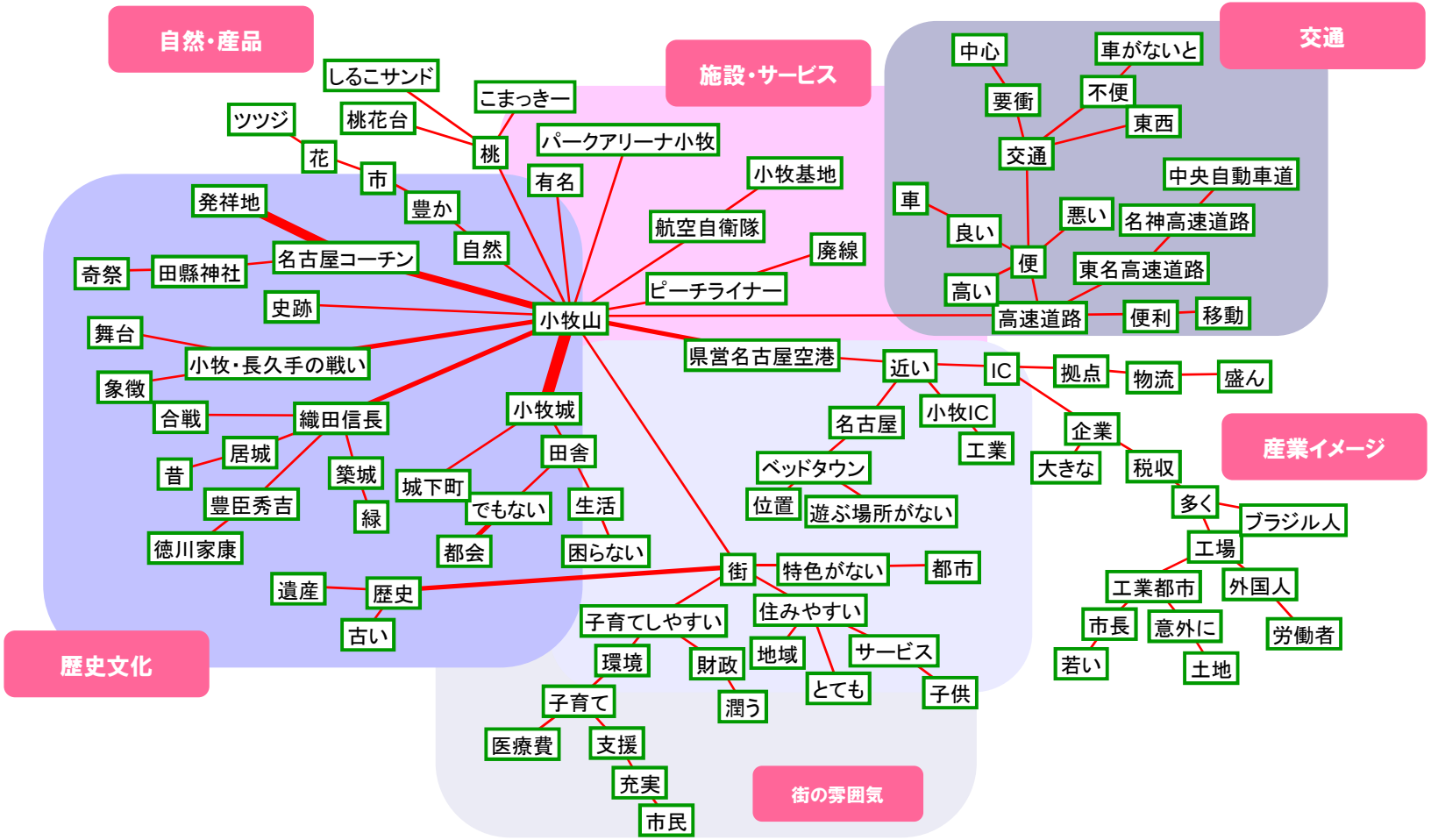


感じる計	感じない計
66.0	12.0
63.5	16.5
73.5	13.0
75.0	6.5
67.0	10.0

注）数値は回収数を100とした％

（1）－2 小牧市についての連想イメージ

- 小牧市についての自由連想では、連想の中心に「小牧山」があり、シンボルとなっていることがわかる。
- 小牧山をシンボルに、連想イメージが「歴史文化」「自然・産品」「施設・サービス」「交通」「産業イメージ」に広がっている。
- 「住みやすい」や、「子育てしやすい」に「環境」や「子育て・支援・充実」等の連想が広がっている。



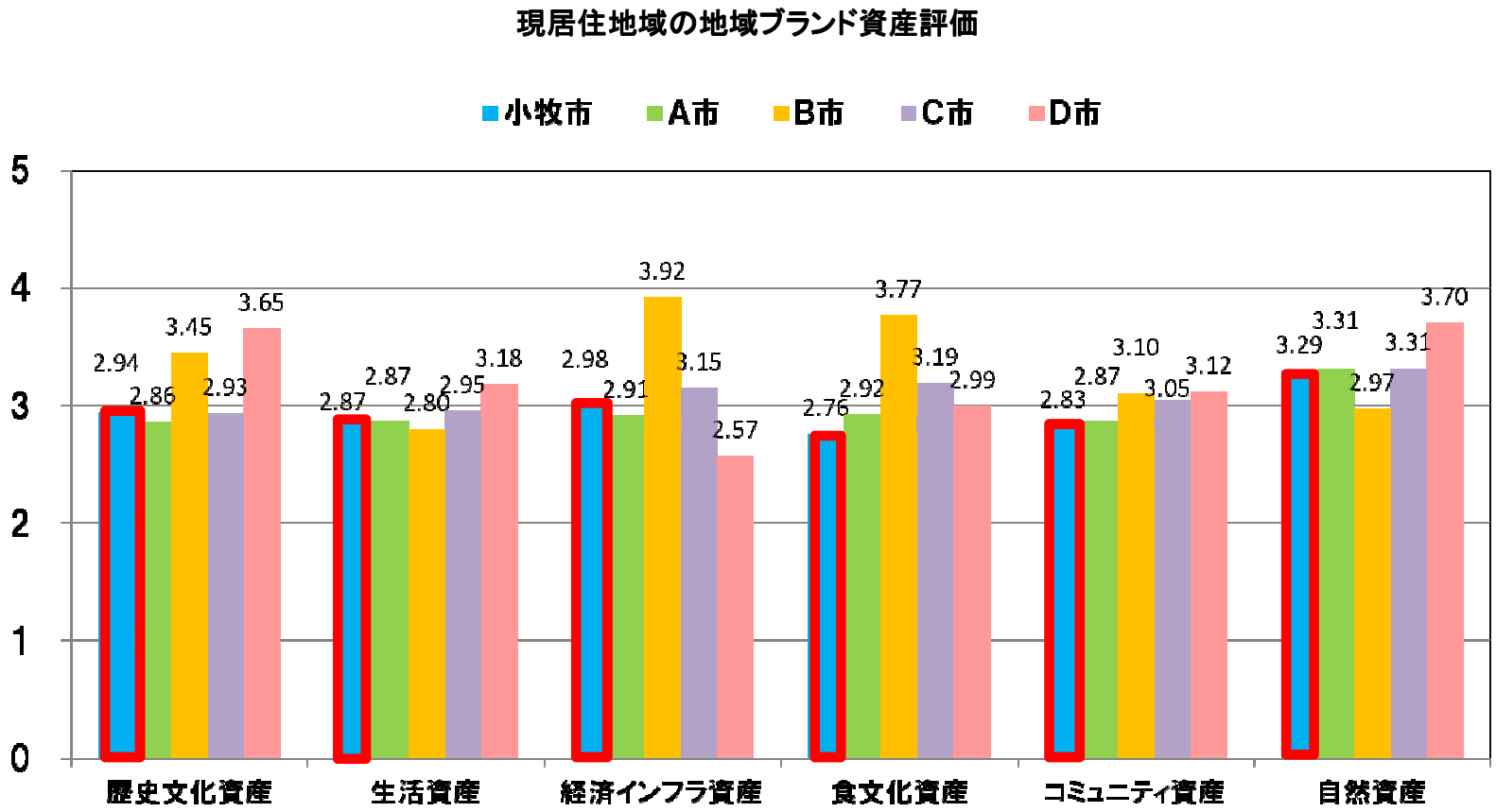
（1）－3 資産・価値についてのアンケート項目

◆ 愛着・誇りの対象となる資産・価値について、以下の項目でアンケートを実施した。

地域ブランド資産	歴史文化資産	歴史的遺産やまち並み、歴史的ストーリー、独自の芸術や芸能といった、歴史や文化に関する資産
	生活資産	物価の安さや住まいの取得のしやすさ、渋滞の少なさ、子育てのしやすさといった生活上の利便性資産
	経済インフラ資産	職場、教育機関、医療機関、商業地域、交通といった生活基盤となるインフラ資産
	食文化資産	食べ物のおいしさや地域独自の食べ物、料理店といった資産
	コミュニティ資産	多様な人々の交流や交わりに関する資産
	自然資産	美しいまち並みや自然環境資産
地域ブランド価値	関係絆価値	人の温かさや心のつながりや絆を感じられること
	自己実現価値	自己の成長を促したり、夢や目標の達成を感じられること
	ゆとり価値	精神的なゆとりや安心を感じられること
	感覚情緒価値	非日常的な感覚を感じられること

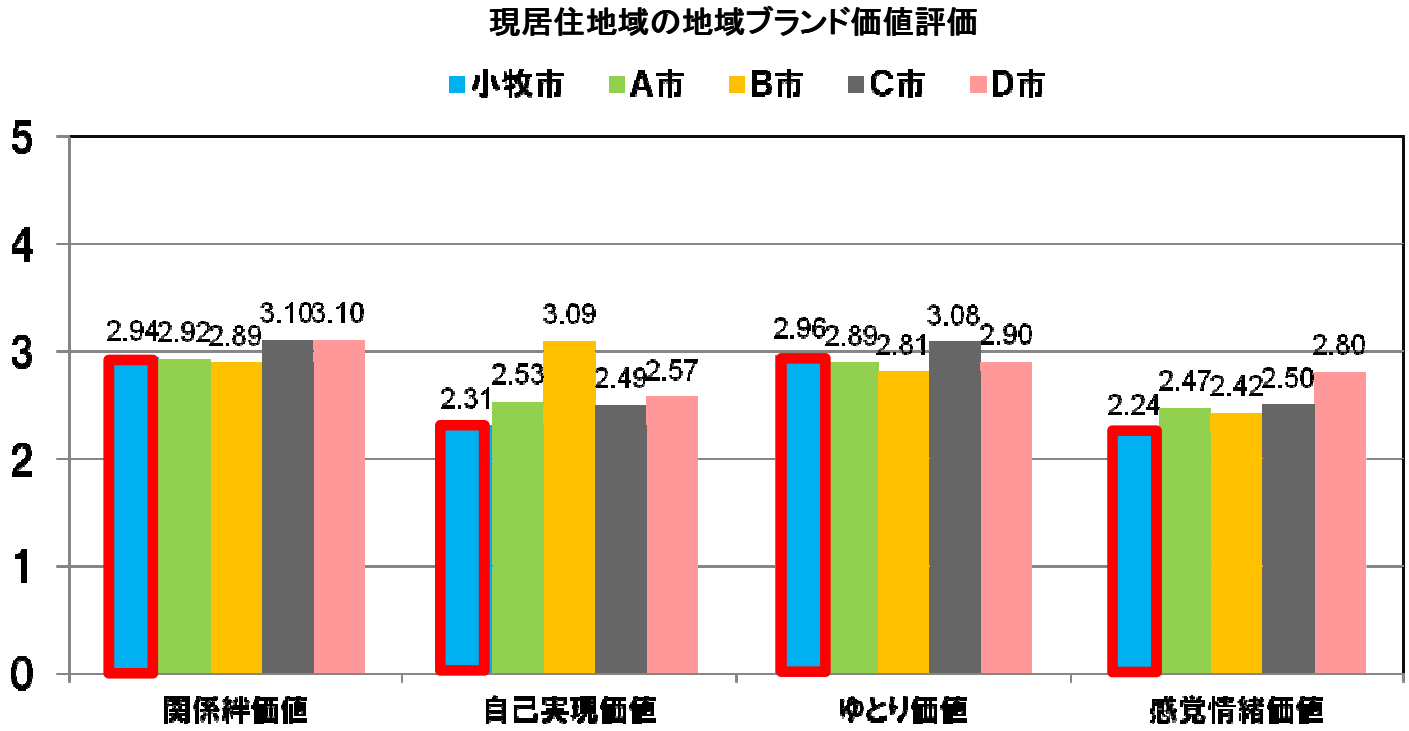
（1）－4 地域ブランド資産評価

- 小牧市のブランド資産評価は、美しい公園や自然施設などを表す「自然資産」に対する評価がやや高く、その地域を代表する食べ物を表す「食文化資産」、住民同士の交流や訪問者が触れ合うことができる場を表す「コミュニティ資産」に対する評価は、他の都市に比べて低い状況。



（1）－5 地域ブランド価値評価

- 小牧市の地域ブランド価値は、「自己実現価値」と「感覚情緒価値」が他市と比較すると低い。
- 感覚情緒価値とは、「日常から開放された気分になれると思う」といったイメージを数値化したもの。つまり、「日常的に暮らす場所」ではなく、「訪れてみたい場所」としての評価であり、観光に力を入れている都市には重要な視点。
- 自己実現価値とは、「夢や目標に近づくことができると思う」といったイメージを数値化したもの。この数値を高めていくことが、市民の小牧市に対する愛着・誇りを高めることにつながる。



（２）中心市街地

- 本市がこれまで取り組んできた全50施策を対象に、満足か不満かを尋ねた設問の中で、「中心市街地の活性化」は「不満（やや不満＋不満））」が4番目に高い。

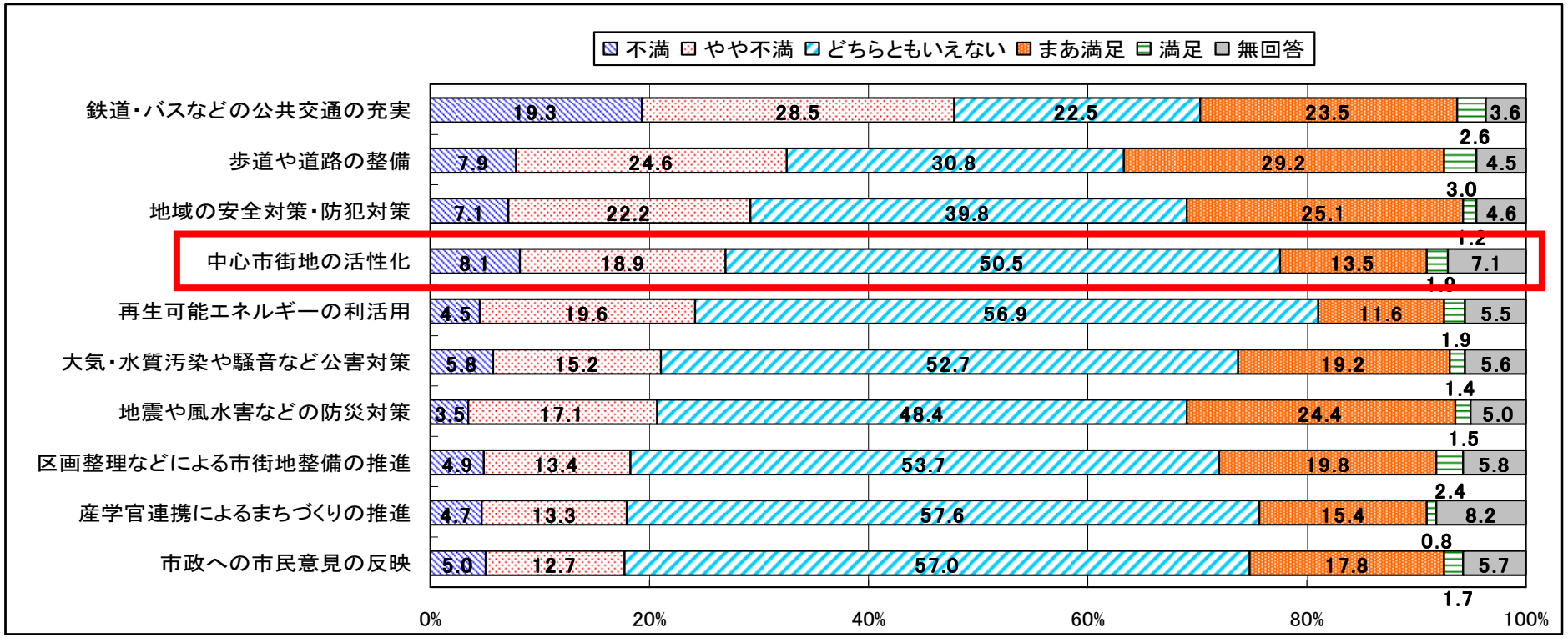
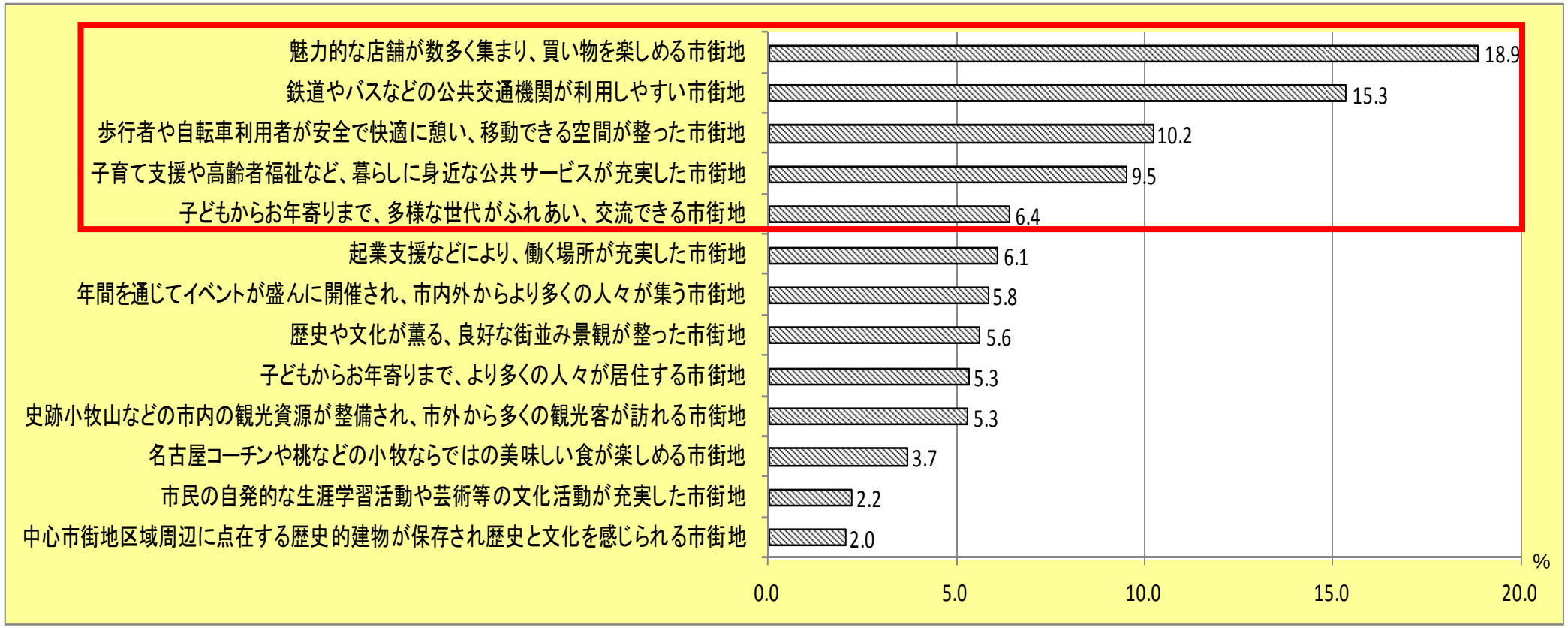


図　施策に対する不満度の高い上位10施策
出典：まちづくりに関する市民意向調査（平成24年7月）

（２）中心市街地

- 中心市街地の目指すべき姿について尋ねた設問において、上位5項目で全体の6割を占めた。
- この上位5項目の実現に向けてまちづくりを進めていくことが重要。



（３）観光

◆ 小牧市における以下の資産について、認知度及び魅力度を調査。

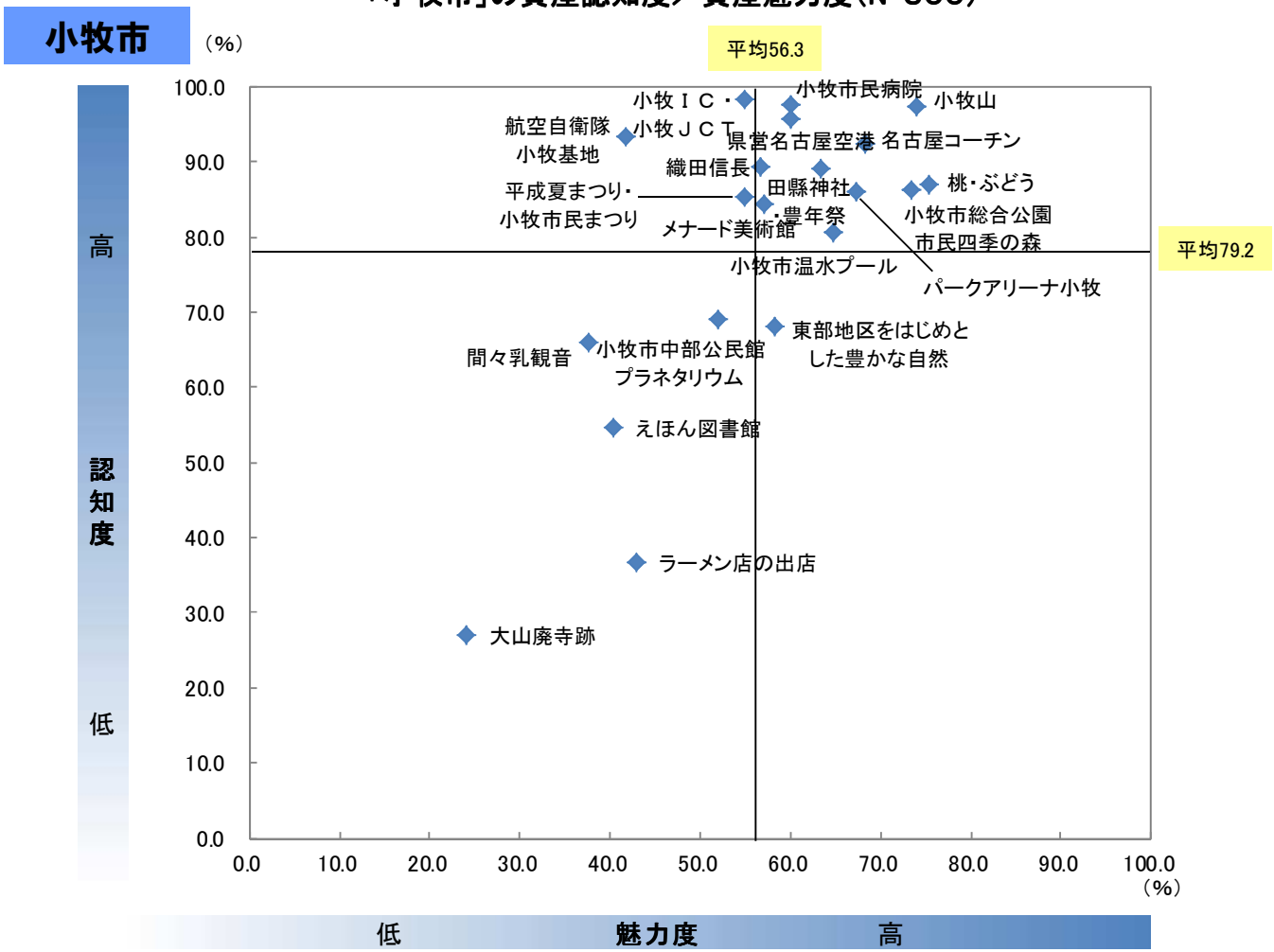
▼小牧市資産一覧

パークアリーナ小牧 最大約5000人収容の屋内型複合スポーツ施設。バレーボールやバスケットボールの世界大会、日本初のイタリア名門クラブACミランのジュニアサッカースクールも開催される、尾張のスポーツの殿堂。	**小牧山** 信長が美濃攻略の居城とし、家康と秀吉が争った「小牧・長久手の合戦」では家康が本陣を置いた三英傑縁の地である。国の史跡にも指定され、山頂には天守を模した小牧市歴史館が建ち、東麓の史跡公園をはじめ市民の憩いの場となっている。	**田縣神社・豊年祭** 子宝と農業の信仰を結びつけた、延喜式神名帳（平安時代の神社一覧）にも記載される歴史の古い神社。毎年行われる「豊年祭」は男茎形を奉納することで全国的にも知名度が高い奇祭であり、海外からの関心も高い。	**名古屋コーチン** 地鶏の代表として全国的に知られる小牧発祥品種。明治時代に尾張藩士の海部壮平・正秀兄弟が作出した地が、旧・東春日井郡池林村（現在の小牧市池之内）である。卵をよく産み、肉もおいしいことから「卵肉兼用種」に分類され、高級食材とされる。	**桃・ぶどう** 小牧市は「桃花台ニュータウン」など、桃にちなんだ名前も多い桃の名産地。特に全国にも名高い「しのおかの桃」は逸品として知られている。 ぶどう栽培は東部地区の開拓とともに始まり、米作に適さない水はけの良い土壌であったことから発展。特産品のひとつ。	**小牧市総合公園　市民四季の森** ソリスベリの丘や、わんぱく冒険広場、ディスクゴルフ場、パターゴルフ場、動物と触れ合えるちびっこ動物村などがある。大人から子どもまで楽しめる施設であり、市外からの来場者も多い緑豊かな憩いの場。	**メナード美術館** 日本メナード化粧品の創業者夫婦が中心に収集した、印象派以降のヨーロッパ絵画、明治～平成の日本画・洋画などを中心に、多くの作品を所蔵し、企画展等でも一般公開されている。
小牧市民病院 尾張北部医療圏で唯一の救命救急センターを持ち、がん診療、高次医療を提供している。急性期包括医療（DPC）対象病院の中で大学病院（Ⅰ群）に次ぐ病院（Ⅱ群）に認定され、最新のガンマナイフやマルチスライスCTを導入し、最先端の医療を提供する。	**えほん図書館** 0歳から小学校低学年までの子どもとその保護者を対象とした、近隣には珍しい絵本に特化した施設。声を出して本を読んだり、親同士が情報交換をする場として利用されている。	**小牧市温水プール** 最大６０cmの波を作ることができる造波プール、全長１７０mの流水プールをはじめ、競泳プール、スライダー、渓流スライダー、ちびっこプール、冒険プールが充実した誰もが楽しめるレジャープールです。	**平成夏まつり・小牧市民まつり** 「平成夏まつり」は行灯山車と華やかなパフォーマンスで夏の小牧の夜を彩り、秋の「小牧市民まつり」は、市民会館、小牧山、小牧駅前を中心にさまざまなイベントが行われ、三英傑（信長・秀吉・家康）のパレードも行われる。	**間々乳観音** 本尊の千手観音像には授乳の願いに御利益があるとされていて、日本では珍しい"お乳のお寺"として知られる。1508年に開かれたと伝えられており、女性の乳房をかたどった絵馬がある。	**県営名古屋空港** 県営名古屋空港は、コミューター航空やビジネス機など小型機の拠点空港として、地元企業など多くの利用がある。現在、旅客定期便が国内５都市（青森、いわて花巻、新潟、福岡、熊本）を結んで運航されている。	**小牧IC・小牧JCT** 小牧市には、名神高速道路・東名高速道路の起終点であり、名古屋高速11号小牧線と接続された小牧ICと、東名高速道路と中央自動車道の結節点となる小牧JCTがあり、小牧の発展に寄与してきた。
東部地区をはじめとした豊かな自然 小牧市の東部地区には豊かな自然が残っており、「ふれあいの森」や「兒の森」をはじめとした自然とふれあえる施設が数多くあり、市民の憩いの場となっている。また、６月頃には大山川でゲンジボタルを見ることもできる。	**織田信長** 今から約450年前の永禄6年、織田信長は小牧山城と小牧城下町を築き、本拠地を清須から移し4年間在城した。小牧山城とその城下町の建設は、信長自身によるものでは初めてのものと言われ、その後の城・城下町建設のモデルとなったと言われている。	**航空自衛隊　小牧基地** 国際平和協力活動の主力となるC１３０輸送機が配備された国内で唯一の基地である。また、毎年開催される航空際は、市外からも多くの人が集まる人気のイベントである。	**大山廃寺跡** 創建は白鳳時代と考えられている。一時は「西の比叡山延暦寺、東の大山寺」と称されるほど隆盛を極めた。現在も塔心礎などの礎石が残り、国史跡として指定されている。	**ラーメン店の出店** 小牧は、近年、ラーメン店の出店が増加している地域で、情報誌にも取り上げられる人気店も多数あり、ラーメン新激戦区となりつつある。テレビなどにも取り上げられ、ラーメン通や業界にも注目されているエリアである。	**小牧市中部公民館プラネタリウム** 昭和５７年７月にオープンし、３０周年を迎えた小牧中部公民館プラネタリウム。日常を離れ、満天の星空の宇宙空間の中で、子どもから大人までを対象とした番組を始め、天文講座やミニコンサートなど様々なイベントを楽しむことができる。	

（３）観光

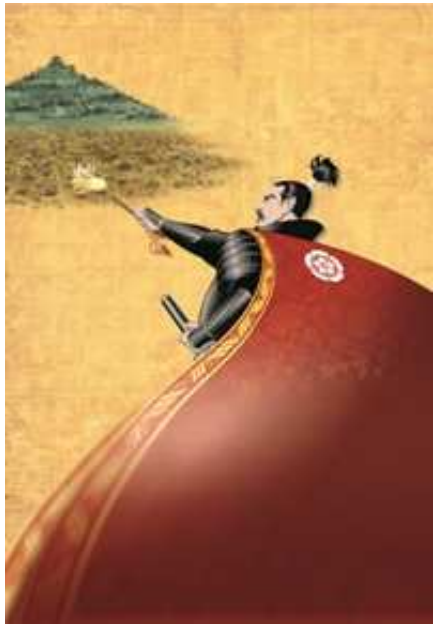
- 魅力度・認知度が高い資産は「小牧山」。
- 「プラネタリウム」、「えほん図書館」など他市に誇れる資産の認知度が低い。

「小牧市」の資産認知度／資産魅力度（N=300）



（３）観光

- 中心市街地の活性化と観光の推進を図るため、「商工課」を「商工観光課」に名称変更し、その中に「まちづくり観光係」を新設した。
- 平成25年は、織田信長公が自ら築いた最初の城である「小牧山城」の築城450年という節目の年を迎え、「夢・チャレンジ」をキーワードにした記念事業を１年を通して開催する。
- 小牧駅に新たに観光案内所を設け、来訪者の観光案内を行うとともに、小牧市池之内が発祥の地である名古屋コーチンなどの小牧の観光推奨品についてのPRも行っている。



3 活力

（1）産業振興

（2）公共交通

（１）産業振興【工業】

- 工業は平成19年頃をピークに事業所数、従業者数及び製造品出荷額等ともに概ね減少傾向で推移。

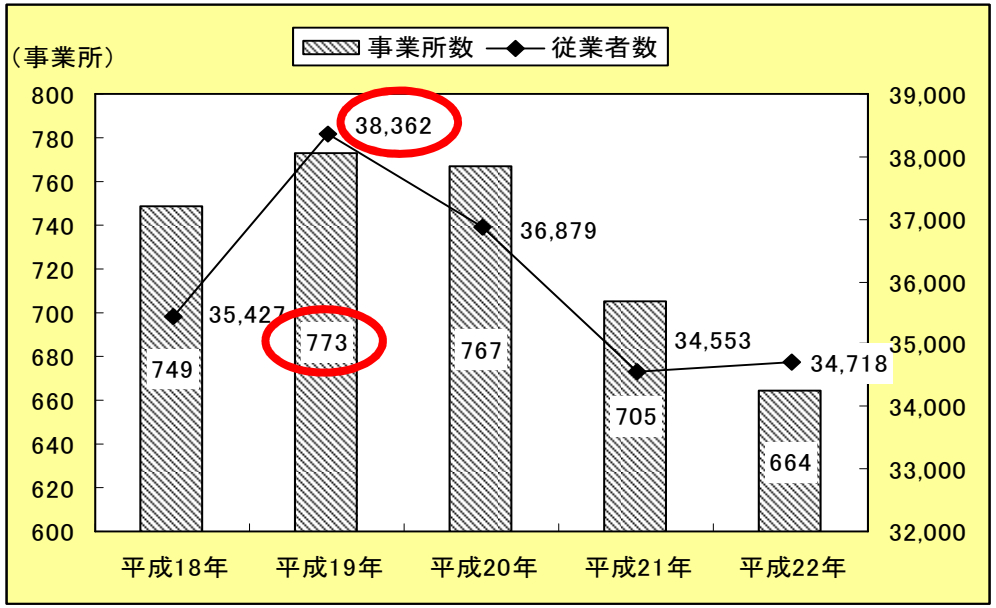


図　事業所数・従業者数の推移
（従業者4人以上の事業所）
出典：経済産業省「工業統計調査」

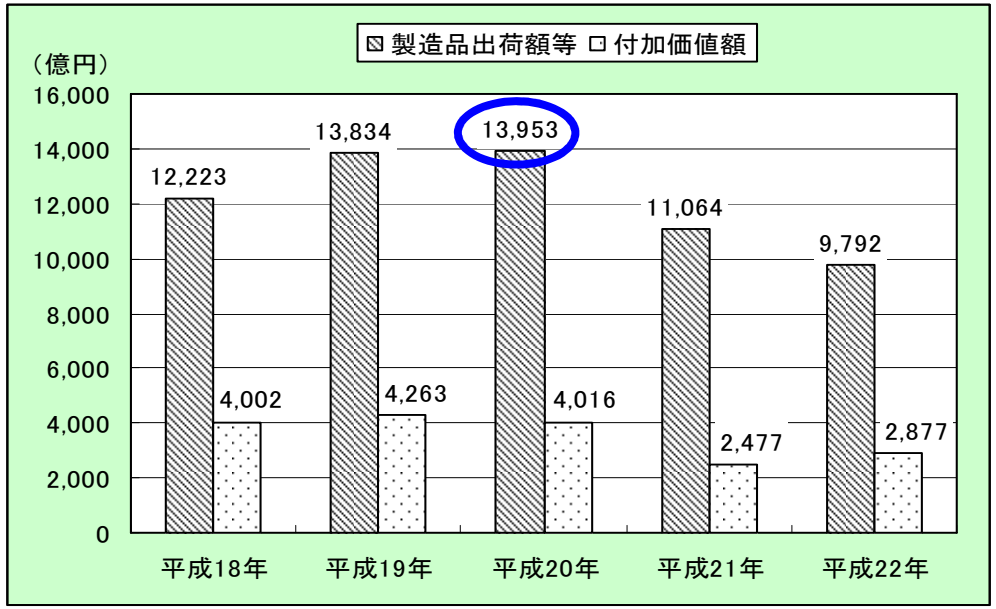


図　製造品出荷額等・付加価値額の推移
（従業者4人以上の事業所）
出典：経済産業省「工業統計調査」

（１）産業振興【商業】

- 小売業は、平成16・19年と2期連続で事業所数・従業者数が減少する一方、年間商品販売額・売場面積は増加しており、店舗の大型化が進行。

表　商業の推移

	合計			卸売業			小売業			
	事業所数（事業所）	従業者数（人）	年間商品販売額（億円）	事業所数（事業所）	従業者数（人）	年間商品販売額（億円）	事業所数（事業所）	従業者数（人）	年間商品販売額（億円）	売場面積（㎡）
平成14年	1,606	15,096	6,655	500	5,317	4,906	1,106	9,779	1,749	196,552
平成16年	1,517 ▲ 5.5	14,671 ▲ 2.8	6,882 3.4	477 ▲ 4.6	5,115 ▲ 3.8	5,069 3.3	1,040 ▲ 6.0	9,556 ▲ 2.3	1,813 3.7	208,601 6.1
平成19年	1,443 ▲ 4.9	14,308 ▲ 2.5	7,091 3.0	463 ▲ 2.9	5,065 ▲ 1.0	5,244 3.5	980 ▲ 5.8	9,243 ▲ 3.3	1,846 1.8	223,669 7.2

出典：経済産業省「商業統計調査」（各年６月１日現在）

（１）産業振興

- 産業立地戦略会議での議論を踏まえ、平成24年度から産業振興基本計画の策定に着手した。今後、この計画に基づき産業振興施策を推進する。
- 今までの取り組みとして、平成23年９月に「小牧市企業立地促進補助金制度」を創設し、企業立地優遇制度の充実を図り、平成24年５月に「小牧市内企業再投資促進補助金」を創設し、企業支援制度の充実を図った。
- 愛知県、岐阜県、名古屋市はじめ12地方公共団体で共同申請した「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」が国際戦略総合特区として平成23年12月22日に指定された。

（２）公共交通

- 「まちづくりに関する市民意向調査」において、施策に対する不満度（やや不満＋不満）は、「鉄道・バスなどの公共交通の充実」が50施策の中で最も高い。

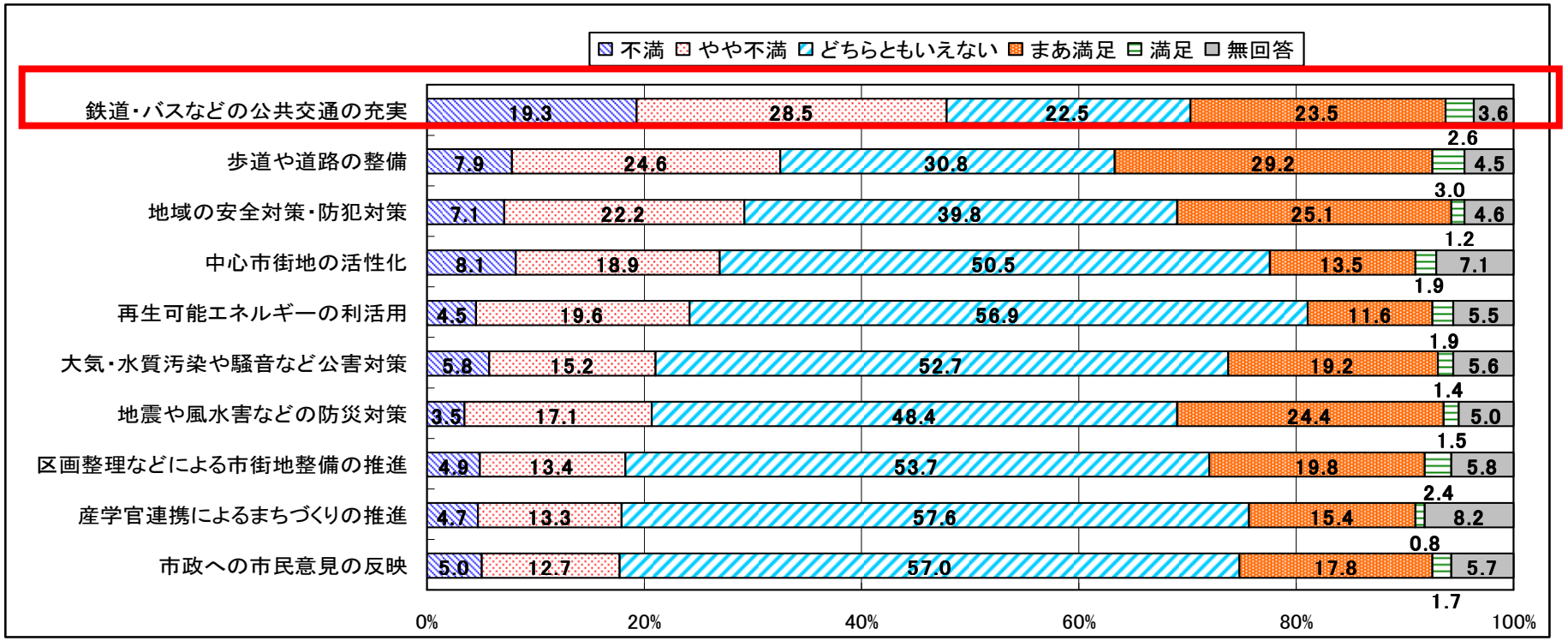


図　施策に対する不満度の高い上位10施策
出典：まちづくりに関する市民意向調査（平成24年7月）

（２）公共交通

- 公共交通施策としては、平成23年10月より65歳以上の「こまき巡回バス無料化」を実施した。また、現在、デマンド交通の導入や巡回バスの見直しなど、より利便性の高い交通体系を構築するための検討を進めている。
- 旧桃花台線車両基地用地にロータリーを整備し、中央道高速バスへのアクセス利便性を図る。
- 名鉄小牧線と犬山線の駅間を結ぶバス路線開設に向けた検討を進めている。

４ 支えあい

（１）高齢者福祉

（２）医療

（３）子育て支援

（１）高齢者福祉

- 近年、65歳以上の老年人口の増加とともに、要介護・要支援の認定者数は一貫して前年度を上回る状況が続く。
- 今後、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の増加等に伴い、家庭の介護力が低下し、認定者数はさらに増える見込み。
- 医療、介護、福祉、ボランティア団体等の代表者と市民・行政の代表で構成される高齢者福祉医療戦略会議を設置し、10年後も高齢者が自宅で安心して暮らせる地域づくりを目指した議論を行っている。また、独居老人対策や地域見守り活動の推進を図ってきた。

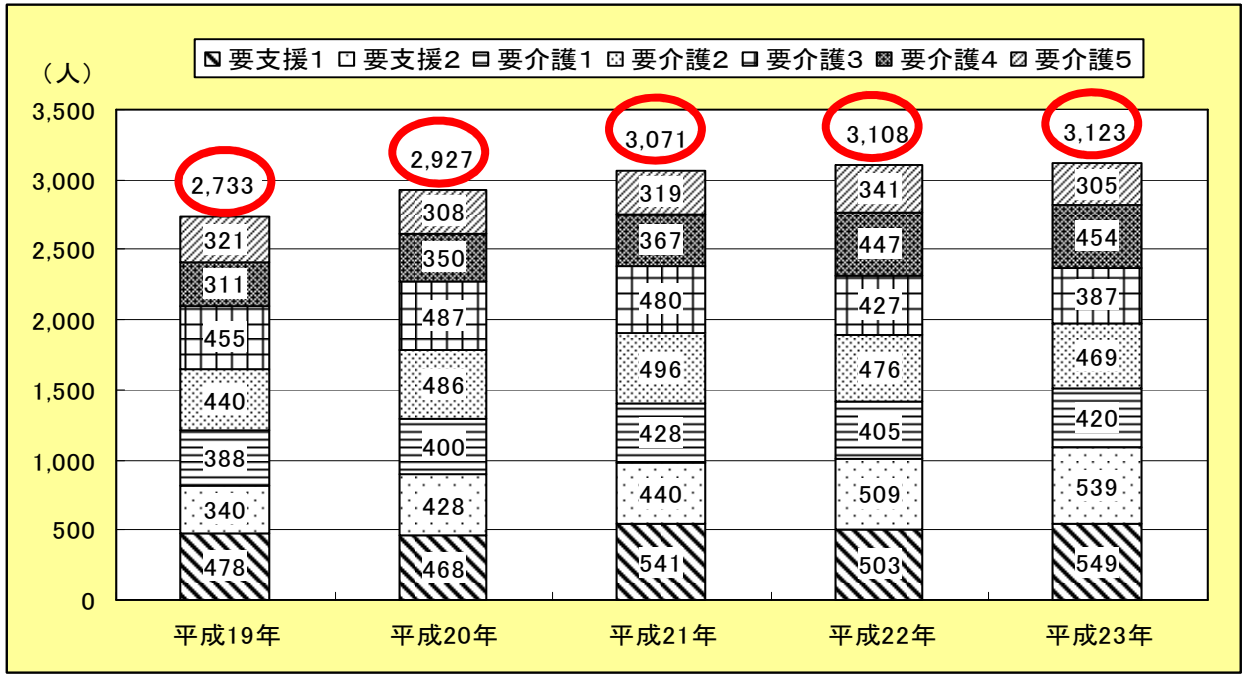
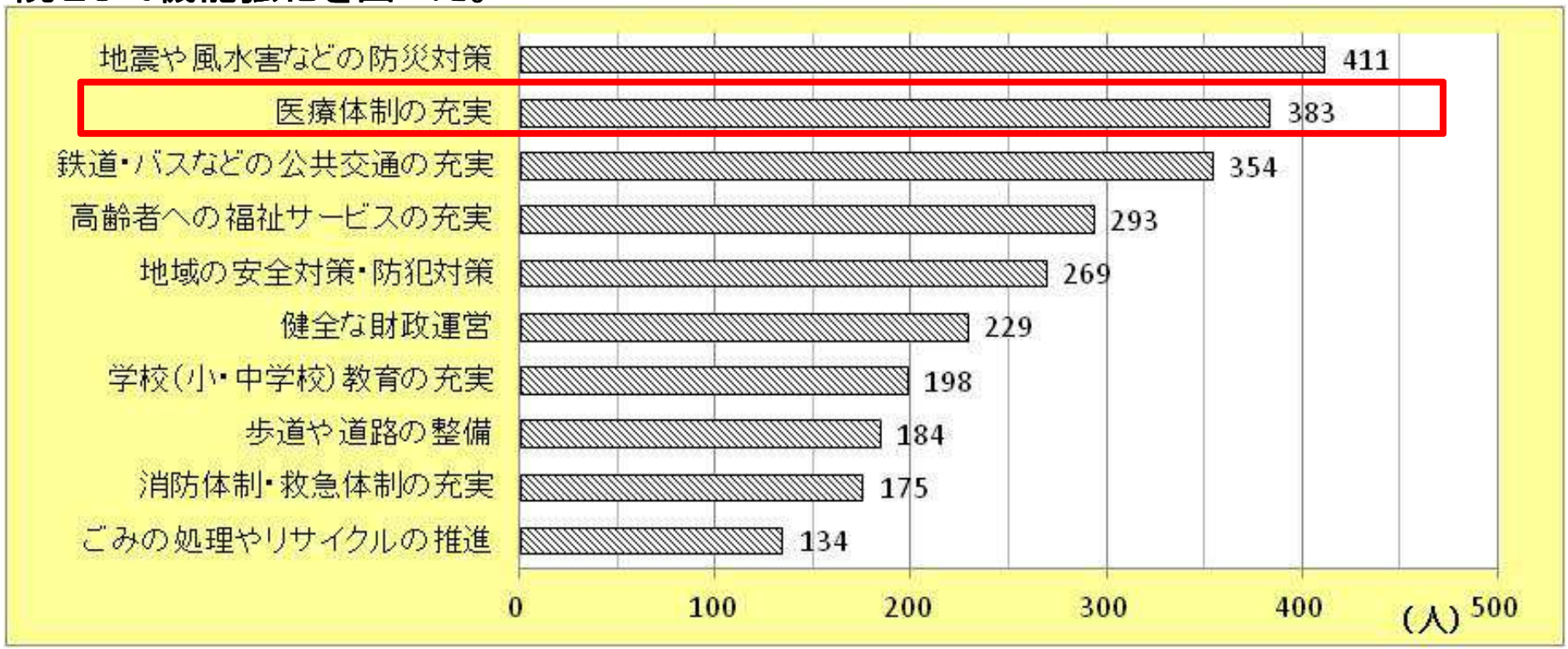


図　要介護・要支援認定者数の推移
出典：長寿介護課資料
（各年3月31日現在）

（２）医療

- 「まちづくりに関する意向調査」の中で、「医療体制の充実」は、今後最も優先すべき施策の中で50施策中第2位。
- 市民病院について、より機動的かつ効率的な病院経営を行うため、平成24年度から地方公営企業法の全部を適用した。また、緩和ケア病棟を4月にオープンし、地域がん診療連携拠点病院として機能強化を図った。



※回答者1,189人中、最も優先すべき施策として選択した市民の数(複数回答)

図　今後、最も優先して実施すべき施策
出典：まちづくりに関する市民意向調査（平成24年7月）

（3）子育て支援

- 都市としての活力の維持・増進を図る上で、子育て世代の定住化の促進は、重要なまちづくり課題の1つであり、平成22年の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に出産する子ども数の推計値）は1.36で、全国と概ね同水準。
- 本市の合計特殊出生率は、平成21年から2年連続で前年を上回り、回復傾向。

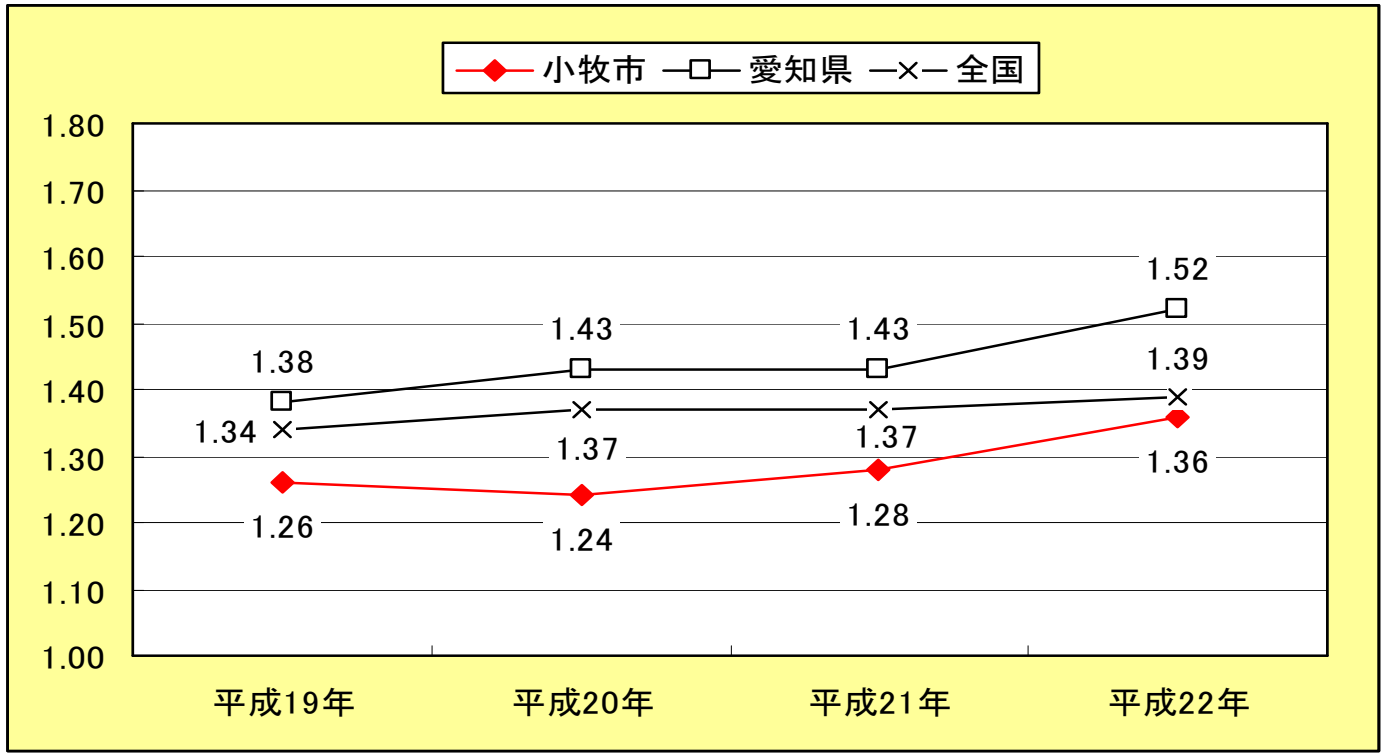


図　合計特殊出生率の推移
出典：全国及び愛知県は、愛知県 健康福祉部
「愛知県の人口動態統計」

（3）子育て支援

- 児童に健全な遊びを提供し、健康の増進や情操を豊かにすることを目的に設置されている児童館の利用者数は、平成21年以降、増加傾向で推移。

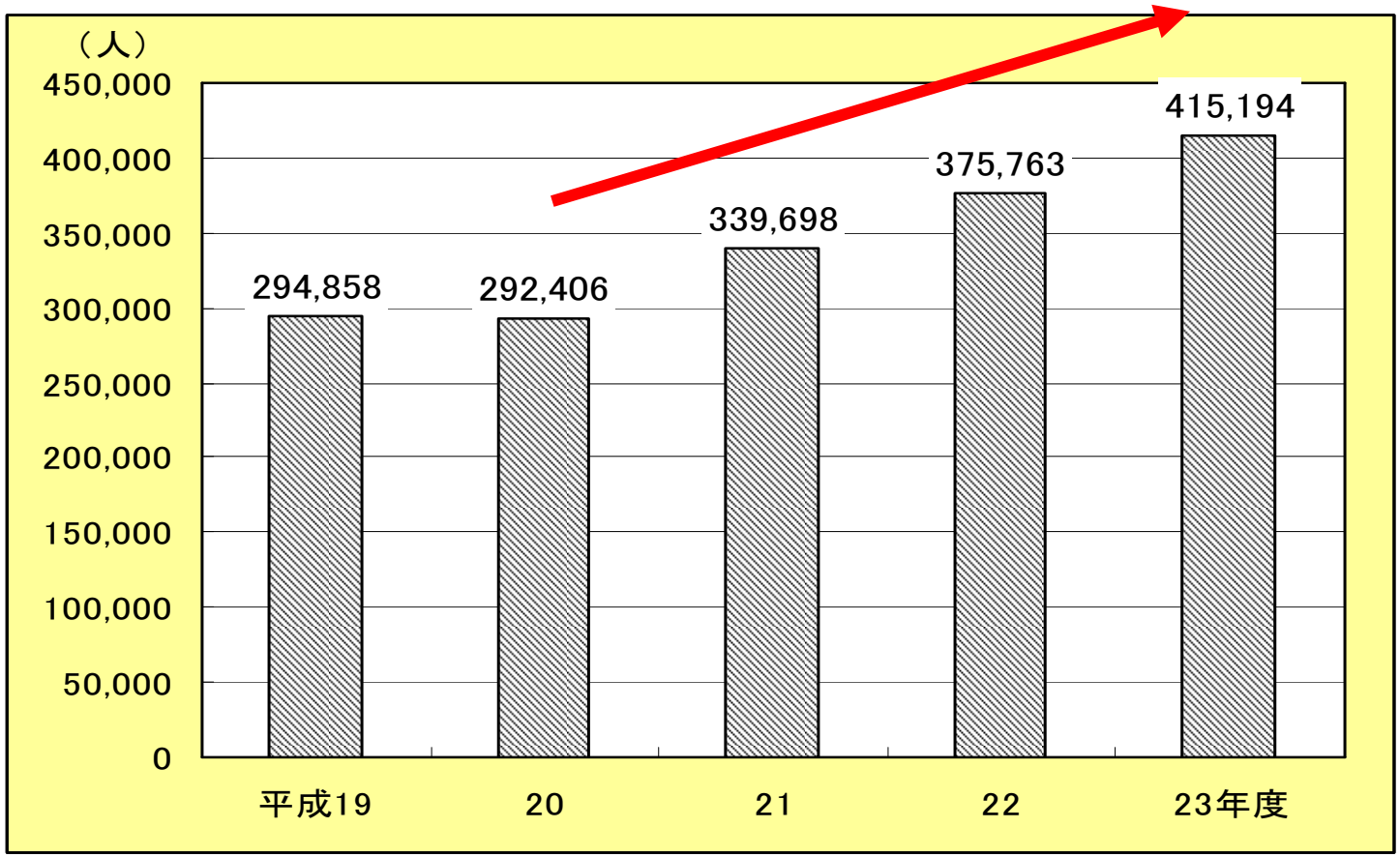


図　児童館の利用状況の推移
出典：子育て支援課資料

（3）子育て支援

- 保育園の改修にあわせ、定員の受け入れ増など待機児童対策の拡充を実施。
- 一部保育園を民営化することにより、一時保育、リフレッシュ預かりなど多様な保育に対応。
- 平成24年度から大城・味岡・大山・小木保育園において、午前7時から午後7時まで保育時間を延長。
- 放課後児童クラブでは、平成23年度から時間延長を実施。年齢の引き上げは平成26年度から実施予定。
- 子育てがしやすい環境を整えるため、各種予防接種の無料化を実施。

5 市民力

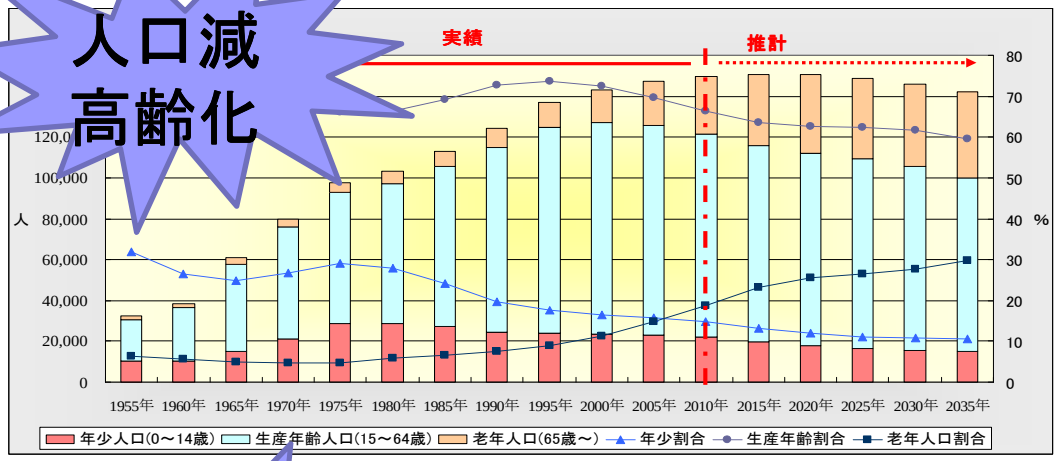
（1）協働・市民参加

（2）地域コミュニティ

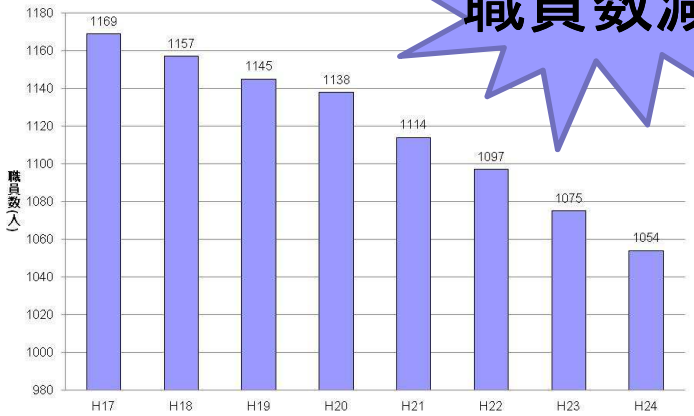
（１）協働・市民参加

- 社会経済状況の変化等に伴って多様化・高度化する地域の様々な課題に行政だけの力で十分に応えていくことは、困難な時代が到来。

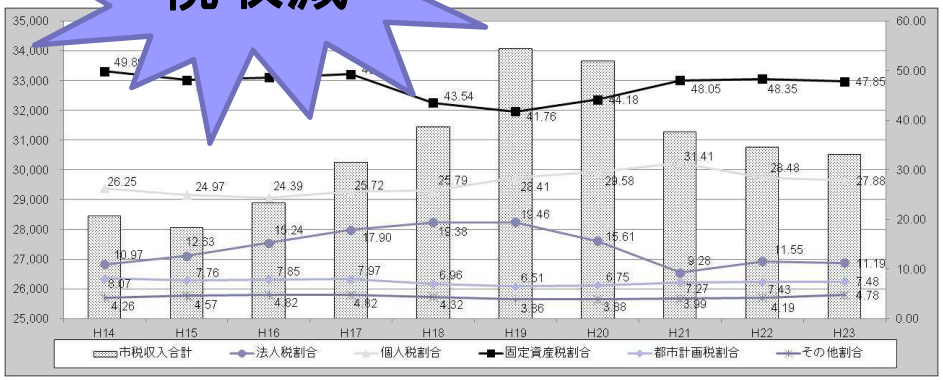
人口減
高齢化



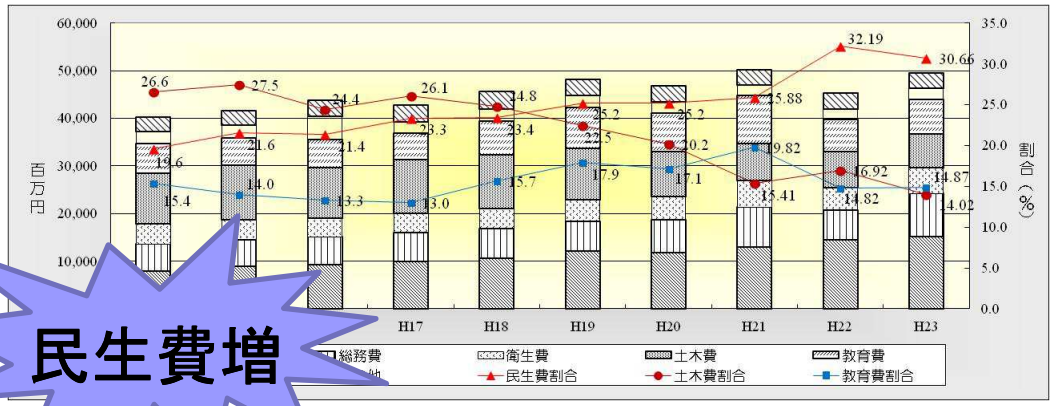
職員数減



税収減

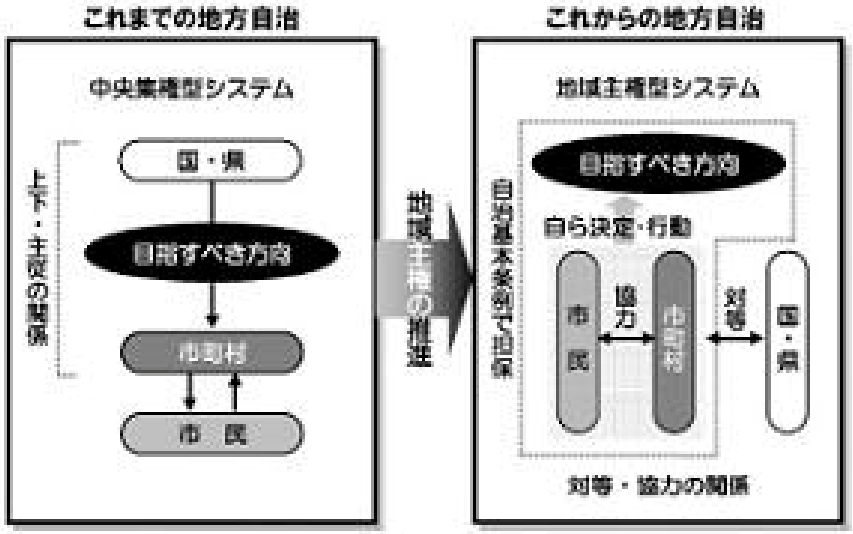


民生費増



（１）協働・市民参加

- 本市は、市民協働を力強く進めていくために平成23年７月に市長公室内に協働推進課を設置した。
- 平成24年度に「協働提案事業化制度」を創設し、市民力の活性化、市民の創意工夫と相互扶助を最大化する仕組みを構築してきた。
- 「市民とともに進める地域づくり」を指針に市民・NPOなどとの連携を進め、住民自治と協働を基本とした小牧市独自の「自治基本条例」を平成27年に制定予定。
- 市民の意見を市政に活かす仕組みとして「パブリックコメント」、「市民の声」などを整備し、市民と市長が直接対話する「タウンミーティング」を開催。
- 市民の市政参加の新たな取組みとして、無作為抽出による市民参加の「市民討議会」を行う予定。



（２）地域コミュニティ

- 近年、全国的に町内会・自治会に代表される、住民同士の日頃からの支えあいを基盤とする地域コミュニティの機能が低下。
- 平成11年以降、本市の自治会加入率は、増減を繰り返しながら減少傾向で推移し、平成23年では83.4%。
- 低下した地域の“絆力”を高め、地域で助け合う・支えあうための新しい仕組みである「地域協議会」を創設する。

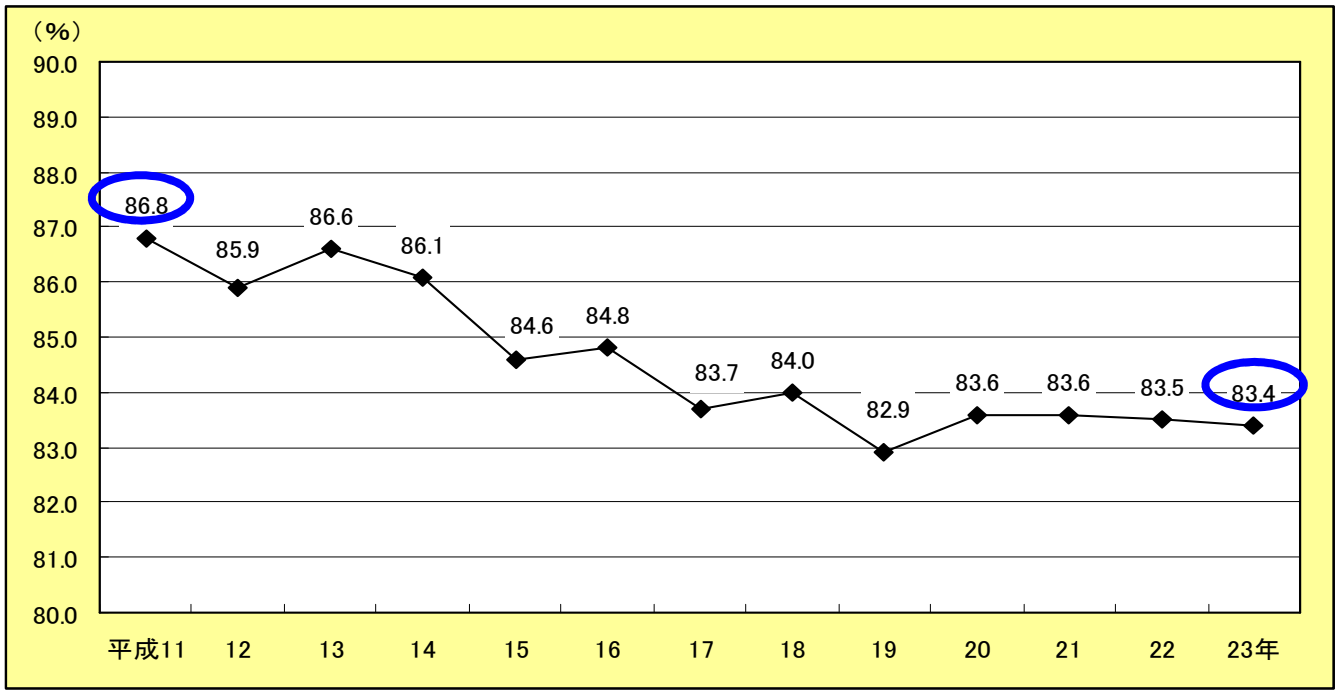


図　自治会加入率の推移
出典：生活交流課資料
（各年3月31日現在）